

令和六年（二〇二四）三月二十六日發行
『大倉山論集』第七十輯抜刷
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

翻刻 大倉精神文化研究所「日誌」（大正一四年～昭和九年）〔上〕

公益財団法人大倉精神文化研究所

翻刻 大倉精神文化研究所「日誌」(大正二四年～昭和九年)〔上〕

公益財団法人大倉精神文化研究所

目次

解題

凡例

翻刻(以上、今号は昭和七年まで)

概要解説

年表

人名索引

【解題】

（翻刻の目的、研究上の意義）

公益財団法人大倉精神文化研究所は、令和四年（二〇二二）四月九日に創立九〇周年を迎えた。それに先立って同年三月に刊行した『大倉山論集』第六八輯にて、

法人として組織を維持し、更なる発展を目指すためには、その時々的情勢に沿った活動や発信が不可欠ではあるが、一方で、創立者の大倉邦彦が掲げた理念に立脚しなければ、当財団及び研究所としての存立意義は失われてしまう。そのため、研究所の歩みを伝える資料を保存し、その内容を理解、普及することは極めて重要な意味を持つ¹⁾。

として、大倉邦彦の「精神運動書翰」一冊（表1）1、7、12）の全文を翻刻し、併せて同資料に基づく「年譜」と、記述に登場する人名・各種団体の「索引」も掲載した²⁾。

その際、「解題」において、

大倉精神文化研究所では、設立後の活動を伝える数多くの資料を所蔵しており、昭和七年以降については詳しく知ることができるが、実業家だった大倉邦彦が、前述のような考え（編集注、研究所設立の趣意）に至った経緯や、精神文化活動を始めた大正期から研究所設立までの活動についてはそれを窺い知れる資料が少ない³⁾。

と、同資料を翻刻掲載する目的と意義を明示する一方で、担当記主が参加していない行事に関する記述がないという問題点を指摘した。

【表1】大倉邦彦及び大倉精神文化研究所の戦前期における活動を記した「研究所沿革史資料」一覧

	年月日	資料名	作成者	研究所沿革史資料 目録番号
1	大正14年3月 ～昭和6年12月20日	精神運動書翰【精神運動】	(大倉邦彦/牟田直ら)	1472
2	大正14年5月 ～昭和9年5月6日	日誌	(原田三千夫)	2495-1
3	(大正15年9月～10月)	(日記)	(大倉邸居住の女性カ)	5919-1
4	昭和2年1月5日 ～昭和3年2月27日	歐洲に於て書籍を購入した日誌	原田三千夫	2495-2
5	昭和4年2月24日 ～昭和5年12月7日	富士見日曜学校 日記ノート(2年分)	富士見日曜学校	6683
6	昭和4年6月 ～昭和4年9月5日	浄牧院修道会日誌	浄牧院修道会	6925
7	昭和5年2月22日 ～昭和9年11月12日	精神運動書翰【中等教育談話会】	(牟田直ら)	1472
8	昭和5年6月19日 ～昭和7年8月21日	富嶽荘日誌	(富嶽荘養生)	13165
9	昭和7年1月6日 ～昭和7年12月22日	自治日記(昭和7年度)	(古文書古記録副本作製部)	2624
10	昭和7年9月18日 ～昭和7年10月31日	臨時神道講習会準備日誌	大倉精神文化研究所	556
11	昭和8年1月13日 ～昭和8年12月26日	自治日記(昭和8年度)	古文書古記録副本作製部	2625
12	昭和8年2月2日 ～昭和10年2月2日	精神運動書翰【宗教講話会】	(牟田直ら)	1472
13	昭和9年1月9日 ～昭和9年12月27日	自治日記(昭和9年度)	古文書古記録副本作製部	2626
14	昭和9年6月26日 ～昭和9年12月31日	「日記」コピー	(可知博一)	13162
15	昭和9年8月22日 ～昭和11年8月31日	日誌(備忘録)	大倉精神文化研究所	2496
16	昭和10年1月10日 ～昭和10年12月14日	自治日記(昭和10年度)	古文書古記録副本作製部	2627
17	昭和10年1月27日 ～昭和10年2月23日	神典編纂協議会日誌	神典編纂協議会	5665-11
18	昭和10年4月21日、 5月12日、13日	(神典編纂協議会日誌の一部)	神典編纂協議会	5665-17
19	昭和10年12月18日 ～昭和11年12月23日	自治日記(昭和11年度)	古文書古記録副本作製部	2628
20	昭和11年4月13日 ～昭和11年7月29日	報告書綴 昭和11年4月～7月	大倉精神文化研究所	6417
21	昭和11年8月5日 ～昭和11年12月31日	報告書綴 昭和11年8月～12月	大倉精神文化研究所	6418
22	昭和11年9月1日 ～昭和13年9月30日	日誌	大倉精神文化研究所	2497
23	昭和11年12月26日 ～昭和42年3月30日	処務日誌(抄、表簿第3号)	大倉精神文化研究所	1362
24	昭和12年1月8日 ～昭和12年5月31日	報告書綴 昭和12年1月～5月	大倉精神文化研究所	6419
25	昭和12年1月11日 ～昭和12年12月19日	自治日記(昭和12年度)	古文書古記録副本作製部	2629
26	昭和12年1月19日 ～昭和12年5月4日	(昭和12年度庶務日誌)	大倉精神文化研究所	3811
27	昭和12年5月13日 ～昭和12年9月25日	東洋大学関係日誌	(原田三千夫)	1474
28	昭和12年6月1日 ～昭和12年8月26日	報告書綴 昭和12年6月～8月	大倉精神文化研究所	6420
29	昭和12年7月1日 ～昭和18年7月12日	東洋大学関係日記(大倉学長)	(原田三千夫)	5950
30	昭和12年9月6日 ～昭和12年12月28日	報告書綴 昭和12年9月～12月	大倉精神文化研究所	6421

	年月日	資料名	作成者	研究所沿革史資料 目録番号
31	昭和12年 9月13日 ～ 昭和12年12月 2日	(東洋大学日誌)	(原田三千夫)	5236
32	昭和12年 9月28日 ～ 昭和14年10月18日	研究発表会日記 (第1冊、昭和12年9月以降)	大倉精神文化研究所	780-1
33	昭和12年11月29日 ～ 昭和13年 2月 7日	自治日記 (昭和13年度)	古文書古記録副本作製部	2630
34	昭和13年 1月 8日 ～ 昭和13年 6月29日	報告書 13年1～6月	大倉精神文化研究所	6425
35	昭和13年 5月16日 ～ 昭和13年 9月15日	宿直日誌一	大倉精神文化研究所	3813
36	昭和13年 7月 1日 ～ 昭和13年12月27日	報告書 13年7～12月	大倉精神文化研究所	6426
37	昭和13年 9月16日 ～ 昭和14年 3月31日	宿直日誌二	大倉精神文化研究所	3814
38	昭和13年10月 1日 ～ 昭和15年 4月30日	日誌	大倉精神文化研究所	2498
39	昭和14年 1月 9日 ～ 昭和14年12月26日	報告書綴 (日誌・出版物入金表)	大倉精神文化研究所	3815
40	昭和14年 4月 1日 ～ 昭和15年 9月31日	宿直日誌 一	大倉精神文化研究所	2612
41	昭和14年 7月22日 ～ 昭和14年 8月22日	朝鮮満洲北支中支旅行記	(原田三千夫)	5670-1
42	昭和14年10月20日 ～ 昭和15年 4月 2日	研究部日誌 (第2冊)	大倉精神文化研究所	2632
43	昭和14年11月15日 ～ 昭和18年12月18日	大日本精神史編纂関係・事務日誌 (研究部第1冊)	大倉精神文化研究所	5939
44	昭和15年 1月 8日 ～ 昭和15年12月28日	報告書綴	大倉精神文化研究所	2621
45	昭和15年 3月 2日～10日	報告書 17～18年【昭和15年】	(富士見幼稚園)	6423
46	昭和15年 5月 1日 ～ 昭和22年 9月28日	日誌	大倉精神文化研究所／大倉山文化科学研究所	2499
47	昭和15年 9月 1日 ～ 昭和17年 4月12日	宿直日誌 二	大倉精神文化研究所	2613
48	昭和15年	報告書 15年	富士見幼稚園	6422
49	昭和16年 1月 1日 ～ 昭和17年 9月30日	編修室日誌	大日本精神史編修室	5775
50	昭和16年 1月 8日 ～ 昭和16年12月27日	報告書 16年1月～12月	大倉精神文化研究所	6427
51	昭和16年 4月 3日 ～ 昭和18年 7月 8日	富士見幼稚園 協議員会日記	富士見幼稚園	6450-2
52	昭和16年 6月16日 ～ 昭和17年 6月12日	(富士見幼稚園日誌)	富士見幼稚園	5378
53	昭和16年 6月29日 ～ 昭和16年 8月	事変後第二回朝鮮満洲北支中支旅行日誌	(原田三千夫)	5670-2
54	昭和17年 1月12日 ～ 昭和17年12月28日	報告書 17～18年【昭和17年】	大倉精神文化研究所	6423
55	昭和17年 4月12日 ～ 昭和18年 7月 4日	(宿直日誌 三)	大倉精神文化研究所	2614
56	昭和17年 6月15日 ～ 昭和17年11月26日	(富士見幼稚園日誌)	富士見幼稚園	5379
57	昭和17年 7月26日 ～ 昭和17年 8月22日	中支北支視察日誌 (事変後第3回)	(原田三千夫)	5669-1
58	昭和17年11月30日 ～ 昭和19年 5月 5日	富士見幼稚園 日記	富士見幼稚園	6450-1
59	昭和18年 2月 2日 ～ 昭和18年12月24日	報告書 17～18年【昭和18年】	大倉精神文化研究所	6423
60	昭和18年 7月 1日 ～ 昭和19年 3月13日	(大日本精神史編纂部日誌)	大倉精神文化研究所	687-4
61	昭和19年 1月 1日 ～ 昭和19年 3月31日	報告書 17～18年【昭和19年】	大倉精神文化研究所	6423

そこで、「精神運動書翰」を補充しうる同時期の活動を記録した資料として、大正一四年（一九二五）から昭和九年（一九三四）までの「日誌」〔表1〕2、4と、昭和五年（一九三〇）から昭和七年（一九三二）までの附属施設である富嶽荘における日誌〔表1〕8）が存在することを紹介した。

今回、翻刻掲載するのはその前者の「日誌」である。

（底本と閲覧利用）

今回翻刻掲載する「日誌」の底本は、大倉精神文化研究所附属図書館が所蔵する二四種類の貴重コレクションの一つである「研究所沿革史資料」（以下、「沿革史資料」とする）に含まれる資料で、目録番号は「2495」である。

沿革史資料とは、研究所設立が計画された頃から現在に至るまでの、大倉邦彦と研究所に関する資料群で、内容は書籍、設計図、写真、書簡、事務書類など多岐にわたっている。いまも登録作業は継続中で、現在目録データは約一万レコードとなっており、順次OPACで外部からも検索出来るように進めている（令和四年三月現在、約四万八千点）。

沿革史資料は原則として公開している。したがって、底本「日誌」の原本は附属図書館で閲覧が可能となっているが、資料の劣化が進みつつある。すでに全ページのデジタル撮影も終えていることから、令和六年度中に研究所ホームページのデジタルアーカイブにて公開する予定である。

(資料名と形態)



図1 「日誌」表紙

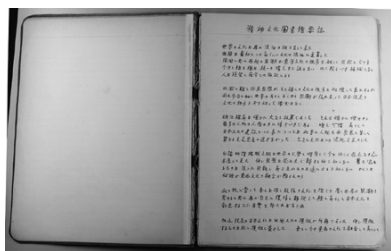


図2 「日誌」本文

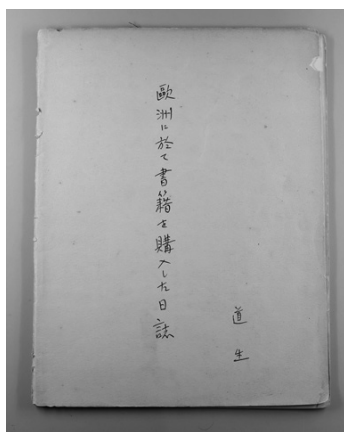


図3 「歐洲日誌」表紙

底本の「日誌」は、二冊の日誌から成る。

一つは布貼りのノートで、寸法は縦二六・八センチ×横二〇・五センチ(図1)。背表紙には「日誌 大正一四、五―昭和九、五」と墨筆されていることから、資料名を「日誌」とした。そして布貼りの表紙をめくると、羽模様の見返しがあり、つづいて二八行横罫の本紙が八四枚あり、冒頭から記事が記されている(図2)。

もう一つは、二五行横罫の洋紙二枚と二枚の洋紙の左側を和綴じして作成された冊子である(図3)。厚紙の表紙には「歐洲に於て書籍を購入しし日誌 道生」と、黒ペンで記されている。「道生」とは、大倉邦彦の秘書を務めた原田三千夫のことである。

なお、以下の記述では、前者の布貼りのノートを「日誌」、後者の和綴じの冊子を「欧洲日誌」と表記する。

(記録者)

筆跡と内容から推すと、背表紙のタイトルと記述の大部分を記したのは、大倉の秘書を務めた原田三千夫である。研究所に残る履歴書等によると、原田の経歴は以下の通りである。⁴

原田は明治三三年(一九〇〇)二月に山口県玖珂郡本郷村(現、山口県岩国市本郷町)に生まれた。大正二年(一九一三)に大阪へ転居したのち、上宮中学校(現、上宮高等学校)、神戸高等商業学校(現、神戸商業大学)へ進学し、二年修了時に東京商科大学(現、一橋大学)へ転学して、大正一四年(一九二五)三月に卒業した。この商科大学在学中に大倉邦彦と交わる機会を得たらしく、大倉の思想に共鳴して卒業後に秘書となり、東京帝国大学文学部の聴講生となっている。そして翌大正一五年三月に大倉のヨーロッパ視察に同行し、昭和三年(一九二八)三月に帰国すると、研究所設立事務として関係各所との折衝にあたった。昭和九年(一九三四)には研究所の所員・主事となり、昭和十一年(一九三六)には財団の理事に就任した。終戦後の昭和二十年(一九四五)一〇月に研究所関係の職務をすべて退いたが、附属図書館が国立国会図書館の支部となると、原田は館長兼司書となり、また財団の理事に復帰した。その後、国立国会図書館参事等を経て、財団理事任期中の昭和五二年(一九七七)六月に死去した。享年七七。

なお、「日誌」には途中から異なる筆跡が若干散見されることから、代理で記録した者がいた可能性が高いが、詳細は不明である。

(記述内容と翻刻)

『大倉山論集』第六八輯で翻刻紹介した「精神運動書翰」の記録者である牟田直は、現在の中目黒にあった大倉邦彦邸に寄宿しており、主に大倉邸や学生寮における活動や大倉邦彦の動向を詳しく記述している。一方で、「日誌」⁶「歐洲日誌」の記録者である原田三千夫は牟田よりも九歳上で、大学卒業と同時に大倉の秘書を務めていたことから、研究所創立の実務に関することを詳しく記しており、「精神運動書翰」とは異なる情報が多く含まれている。

まず「日誌」には、冒頭「精神文化図書館要誌」が掲げられている。書かれた日付は昭和三年（一九二八）五月一日で、内容は精神文化図書館、即ち大倉精神文化研究所の設立理念であって、原田が大倉から度々聞いていたことを文章化したものである。翌昭和四年（一九二九）二月一日付の「大倉精神文化研究所設立趣意書」（沿革史資料11086）と併せて、大倉が抱いていた理念や研究所設立の構想等を知る上で欠かせない重要な資料である。

つづいて、大正一四年（一九二五）五月に図書館建設のために土地を購入したことが記されているが、大正一五年（一九二六）までの記述は、原田がヨーロッパから帰朝してから溯って記述したらしく、極めて簡略な文章となっている。旧研究員の小森嘉一からの聞き取りによると、原田は筆まめで、後述する「訪欧日記」のように、大倉の秘書になった時からの日記が原田家に現存していたと考えられている。原田は、こうした日記等から関連事項を抜き出して記述したのであろう。

昭和三年三月二日以降は時系列で、①附属図書館に収蔵する図書収集、②研究所本館の建設、③古文書古記録副本作製部、④各所員の動向など、原田が担当していた実務に関することが記述されている。そして「日誌」は、昭和九年（一九三四）五月六日の富士見幼稚園一〇周年記念祝賀式の件で締めくくられている。

もう一つの「歐洲日誌」は、昭和二年（一九二七）一月五日から翌昭和三年二月二七日まで、原田がヨーロッパに

滞在していた時の日誌である。記述した通り、原田は大正一五年三月に大倉の秘書としてヨーロッパ視察に同行し、昭和三年三月に帰国した。大倉は大正一五年一月に帰国の途に就いたが、原田はその後もしばらくヨーロッパに滞在している。目的は、大倉精神文化研究所附属図書館に収蔵する洋書の買い付けであった。そのため、「歐洲日誌」には日記やメモを基に、古書店等からの図書購入に関する事柄が時系列に記述されている。なお、「日誌」の大正一五年一〇月下旬条に「滞歐日誌、別紙の如し」とあるのは、この「歐洲日誌」を指すと思われる。

本号では紙幅の関係上、「日誌」「歐洲日誌」の翻刻全てを一度に掲載するのは難しいため、「日誌」の昭和七年（一九三二）一二月三一日条までを掲載することとする。それ以降の「日誌」及び「歐洲日誌」の翻刻と概要解説は次号に譲ることとしたい。

（他資料との関係、今後の課題）

ここでは、三つの観点から整理しておきたい。

第一に、大正一五年のヨーロッパ視察である。今回翻刻する「歐洲日誌」とは別に、原田が大倉と共に日本を出発してから一〇月下旬にイギリスで別れるまでの日記が存在する。原本は当研究所には所蔵されていないが、かつて元研究員の小森嘉一が原田家から借用して、主要部分を筆写している。その筆写原稿の大部と原本のコピーは当研究所へ寄贈されており、その翻刻は大倉精神文化研究所編『財団法人大倉精神文化研究所沿革史稿本第二冊』（平成一二年／二〇〇〇年）に、「原田三千夫『訪歐日記』」と題して掲載した。沿革史資料にはこの他にも、書翰や領収書等の書類、アルバム帖や絵葉書等、ヨーロッパ視察に係る資料が多く現存している。これらの資料類は約一〇〇年前のヨーロッパの様子を、また日本人の異文化体験の実相を知る上で、貴重な手掛かりとなるであろう。できるだけ早い

うちに、より多くの方々が閲覧、利用できるように、アーカイブ公開を進めたいと考えている。

第二に、研究所が所蔵する他の資料との関連性である。「日誌」の本文中には「別紙」「別冊」という文字が散見されるが、これに該当すると推定される資料が沿革史資料に存在する。例えば、藤原猶雪が昭和四年（一九二九）一月中旬に、史料編纂所（現、東京大学史料編纂所）が各地社寺等から借用していた古文書のうち、精神文化に関係あるものを影写するよう提案した際、「その具体案、別紙の通り」とある。これは筆跡と内容から「東京帝国大学史料編纂掛に於て大日本史料古文書編纂の為全国の社寺旧家等より借用せる図書の中、特に宗教国史及び日本文化に関するものを精神文化研究所に於て謄写の件に對する協定私案」（研究所沿革史資料8243-12）が該当するであろう。また、昭和四年三月二七日に日本古文書古記録副本作製部に係る俸給辞令を交付しており、本文にある「別冊控」とは「辞令控帳一」（研究所沿革史資料1829）であろう。したがって、これらの資料は現在別々に目録登録されているが、本来は一塊の資料群であつて、原田が管理していたと推察される。こうした各資料を関連付けていくことで、情報の正確度がより高められるであろう。

第三に、大倉邦彦及び大倉精神文化研究所の創立前における教育活動や精神文化活動の実態である。秘書として研究所と附属図書館の創立にあたった原田による「日誌」「歐洲日誌」と、大倉の側で精神文化事業を支えた牟田らによる「精神運動書翰」によつて、かなりの部分が明らかになった。そして創立以前より大倉が積極的に進めていた事業の一つが、学生寄宿舎の運営である。その一つである富嶽荘の寮生達は大倉の許で各事業を支えており、当番制の記録「富嶽荘日誌」が現存している。これも近いうちに翻刻掲載を目指したい。

この他、大倉邦彦及び大倉精神文化研究所の戦前期における活動を記した資料は、前掲の【表1】の通りである。これらの翻刻作業及びアーカイブ公開も順次進めていく予定である。

注

- (1) 公益財団法人大倉精神文化研究所「翻刻研究所沿革史資料『精神運動書翰』(大倉邦彦先生教育事業の記録)」「(大倉山論集)第六八輯、大倉精神文化研究所、令和四年)二六八頁。
- (2) 右同、二六七〜三九七頁。
- (3) 右同、二七七頁。
- (4) 原田三千夫「履歴書」(沿革史資料230-45)、原田三千夫「履歴書(写)」(沿革史資料163-5-14)。
- (5) 東京商科大学(現、一橋大学)は、邦彦の養父・大倉文二の母校でもある(ただし途中退学)。そのため、文二が大正七年(一九一八)七月に死去すると、邦彦は文二の旧蔵図書を寄贈している(東京高等商業学校編『東京高等商業学校一覽』大正八年)。また、邦彦は東京商科大学在学生を対象とした学生寮「一如洞」を設けており、原田も入寮している。
- (6) 大倉邦彦と牟田直との関係は、大倉紙パルプ商事一〇〇年史編纂委員会編『百年史』(大倉紙パルプ商事、平成元年)を参照されたい。

【凡例】

- 一、原本の漢字はすべて現代通用の字体に改め、かな文字・カタカナ・数字表記は原本通りとした。
- 一、明らかな誤字も原本通り翻刻した上で、正字を「 」でルビとして付した。
- 一、■は解読不能の文字を表す。
- 一、原本の書式は記録者や時期によって不統一である。本翻刻では、記載内容を十分に考慮した上で、書式を整理統一した。
- 一、文章の意に沿うように、適宜句読点を施した。
- 一、資料内容の理解のため、本文中に補注を「 」で適宜付した。
- 一、入力校正は岡崎寛徳、勝岡ゆかり、星原大輔、吉田舞衣が、解題は平井誠二、林宏美、星原大輔が担当した。

【翻刻】

精神文化図書館要誌

世界の文化は再び混沌の相を呈して来た。

我国は最初にこの新しい文化の混沌に逢著した。

開国と共に西欧の思潮が東洋文化の秩序を破って、茲既に六十年。今日と雖も猶ほ統一の曙光すら認めない。以て頼るべき繩綱もなく、人は絶望と疲労との極致にある。

以前と雖も、外来思想がその時々々の文化の秩序を破壊した事はあるが、而も今日の如く世界のありとあらゆる思潮が流れ来って、日本従来文化の秩序を打ち破った時代はない。

明治維新は確かに大なる改革であった。それは確かに傑出せる幾多の人物の人格の力に帰すべきである。唯だ可惜、新しい日本文化の建設といふ事については、此等の人物も亦衆愚に等しく、単なる無定見者に過ぎな

かった。ために、文化はこの混沌を来たした。

勿論、所謂機械文明は世界の大大勢に順応して、今や殆んど遜色なき迄に進展して来た。併し思想は尚ほ未だ帰する所を知らない。旧を温ねるものは徒らに固執し、新を追ふものは遂に止るを知らない。かくては何時か東西文化の融合が期されやう。

此の秋に当って、吾々は深く既往の文化を探ぐり、広く世界の思潮を究めると共に、再び自己に復帰し静沈して、聽て新らしく日本文化を創造するてふ自覚を持たねばならぬ。

加之、従来日本文化は、他国文化の模倣か修飾であった。併し模倣するものは既に模倣し尽された。吾々ハ今や東西の文化を融合して、新らしく日本文化を創造するといふ使命に生きなければならぬ。

而もその使命たるや、 $1+1$ 的加法による知識の蒐集では得られぬ。 1×1 的乘法による体験の獲得による外はない。この意味の人物を養成する事は、誠に我が刻下の急務である。

大倉尊台、私財を投じて精神文化図書館、研究所並に一種の塾生活を企画される所以は、実にこの趣旨に添はるがためである。殊に又東洋文化研究、就中日本文化研究に主力を注がんとされる所以は、

一は、伝来の日本文化の精髓を忘れんとするものに自覚反省の機会を与へ、

一は、近時欧州に於て基督教文化が漸くその秩序を乱し、力あるものを東洋思想に求めるに至つたのに顧み、一日の長を以て之を彼等に紹介指導するの労を探らうといふ所にある。

昭和三年五月十四日誌す

原田道生

大正十四年五月

図書館建設敷地として、目黒町中目黒に約二千五百坪の地所を購入す（地価拾万円）。

同地所に、地盛工事をなす。

九月

友枝高彦氏を通し、三並良氏所有図書、取纏め購入す。下記要項に従つて、図書館第一期購入図書の選択を、同下記の諸氏に依頼す。

1 精神文化史上著名なる大家の和漢洋原著
（例へばPlaton, Kant等、人物を中心として、その著述の一切を蒐集する事）

2 或問題又は思想の研究に關し、代表的と認められる和漢洋原著

（この項は問題又は思想を中心とするものにして、その著者の如何を問はず）

3 此等原書の理解に必要な若干の名著

（例へば、紹介書、註釈又は読本）

4 精神文化に貢献する価値ありと認められる現代の著書

特に国民精神を鼓舞するに足るもの

5 宗教・哲学・倫理・心理・教育に關する、最も權威ある定期刊行物

宗教 木村泰賢 助手 布施洪岳 佐藤泰舜

西 義雄 植木謙英

三月四日

大塚道光 神代峻通

大倉氏、原田を同伴、神戸港出帆。

原田敏明

四月十二日

哲学 伊藤吉之助 助手 大室貞一郎

倫敦に到着。三ヶ月間滞在。

倫理 友枝高彦

七月↓十月

教育 乙竹岩造 〃 野々村運市

仏蘭西、白耳義、和蘭、独逸、芬蘭、瑞典、丁抹巡視

心理 高橋 穰 〃 留岡清男

(十月初旬、広瀬技師、漢堡に來たる)。

日本文化 補永茂助

十月下旬

而して、助手には、各部毎に(宗教は更に一般宗教と印哲とに分つ) 毎月金^(半日)也を給与し、十一月に始めて三月に終了する予定なり。

大倉氏、広瀬氏同伴、倫敦發。仏蘭西、瑞西、伊太利經由。十一月下旬、ナポリ發の伏見丸にて、帰朝の途に就かる。

十月

原田は、図書館研究兼図書館購入の目的を以て、倫敦に留る。

東京京都の各大学図書館、一般図書館所蔵の図書目録を蒐集して、各部に分配し、図書選択の参考に供す。

滞欧日誌、別紙の如し。

大正十五年二月

大倉氏、別紙趣意に従つて、欧州視察の意を決せらる。

昭和三年三月廿一日

図書選択に当られた六氏に、謝礼として丸善商店商品

原田、滞欧二ヶ年の後、シベリア經由、帰朝。

券(各金參百円也)を贈呈する。

目黒町中目黒図書館建設予定地は、附近に瓦斯タンク

が出来たといふ理由で売却する事に決し、新たに横浜電線太尾といふ所に一万坪の敷地を購入する事になる。図書館建築を依頼すべかりし酒井コンクリート工業店並ニ広瀬技師に対しては、都合によりその依頼を断り、新たに長野宇平治氏並ニ荒木孝平氏に設計を依頼する。欧州に於て購入した書籍、続々到着。

- 1 London, The Times Book Club 30箱
 - 2 Paris, Yoseph Vin 2箱
 - 3 〃 Maison du Livre Français 3箱
 - 4 London, The Times Book Club 8箱
- 之等の書籍は大倉洋紙店倉庫に保管。

前三者に対しては¥18,000— } 保険料金¥144— }
後一者に対しては¥4,600— (502冊) 〃 ¥36,80 }

の保険価格を見積り、大正海上火災保険株式会社と保険契約を締結す。

四月五日

荒木氏と共に、各図書館見学の打合せをする。

四月十六日

間宮商店主・間宮不二雄氏の案内にて、東京朝日新聞社の書庫を見学する。

四月十八日

間宮商店員の案内にて、徳川生物学研究所、駒沢大学図書館、立教大学図書館を見る(荒木氏同伴)。

四月廿一日

精神文化図書館第一期図書選択を依頼した諸氏に宛て、近況を報告する。

四月廿三日

大倉氏、荒木氏と共に、大橋図書館、旭硝子会社図書室を見る。

四月廿五日

午後より、大倉氏、荒木氏と共に、早稲田大学図書館、東洋文庫を見る。

四月廿六日

午前、洗足池畔清明文庫を見る。

四月卅日

藤山工業図書館、南葵文庫、帝国大学図書館を見る。

五月五日

夕方、原田、関西各図書館見学のため西下。

五月九日

荒木氏、西下。大原社会問題研究所、大阪府立図書館、

神戸高商兼松記念館、神戸市立図書館を見る。

五月十日

和歌山高商図書館、岸和田市立図書館、大阪毎日新聞

社書庫を見る。

五月十一日

京都帝国大学文学部書庫、法経部書庫、並ニ立命館大

学文庫を見る。

五月十二日

荒木、原田兩人、帰京。

Leipzig, Alfred Loreutz 三月廿八日発送の書籍、鉄道

便にて到着す。

同書店にて購入の書籍廿箱、横浜に到着。運送屋富島

組に託して輸送方を依頼する。

五月廿五日

横浜正金銀行東京支店より、原田滞英中倫敦正金支店

に預け置きし白地為替手形四通、返送し来る。

五月廿六日

Leipzig, Alfred Loreutz より五月三日発送の書籍、到

着す。

原田、Leipzig より購入の書籍廿箱、通関立合のため

横浜に出張す。

五月廿六日

Lond. The Times Book Club より別紙、受信。

五月廿八日

図書研究会に、Book Review 一ヶ年月極購読、申込。

Berlin, Sreissand より購入の書籍三箱、到着。大倉洋

紙店倉庫に保管。

六月一日

Leipzig, Loreutz より購入の書籍廿箱、到着。大倉洋

紙店倉庫に保管。

之に対し、大正海上火災保険株式会社と、下記の通り

保険契約を締結す。

Berlin, Streisand 書籍 283冊 3箱

Leipzig, Loreutz 〃 5.126冊 20箱

価格 } ¥30,000—

六月十日

太尾図書館敷地境界線、決定に行く。

七月十一日

午後二時、大倉洋紙店にて、大倉氏、長野氏、荒木氏、

原田、会合。図書館建築第一回打合せをなす。

夕刻、目黒邸に、六高教授・松本氏、東洋大学教授・

藤原氏、黒上氏等会合して、日本文化に関する書籍選

択の打合せをなす。

七月十五日

大倉氏、長野氏、荒木氏其他と共に、太尾事業地を視

察す。

七月廿日

東京日々新聞に、大倉氏図書館事業の記事載る。

七月廿一日

Leipzig, Alfred Loreutz, Dr. Wiegandt 並し Herr

Kappler に宛て発信。

七月廿四日

Leipzig, Asia Major 並 Berlin, Hugs Streisand 宛てし

発信。

八月十四日

長野博士事務所ニ、長野博士、荒木氏、原田、相会し

昼食を共にする。

精神文化図書館の Sketch 出来上る。

八月十七日

大文洋行にて、長野博士、荒木氏、大倉氏、原田、協

議。

八月十八日

原田、小石川久堅町・藤原氏の病状訪問。

八月廿四日

原田、横浜市図書館参観。

十月八日

第二回図書館建築打合せ。大倉、長野、荒木、原田。

十月廿九日

第三回図書館建築打合せ。大倉、長野、荒木、原田。

延坪五百坪以内として、大体のスケッチ定まる。

十一月十三日

下記書籍、大倉洋紙店倉庫に保管し、保険を附す。

羅典語彙 39冊 ¥1136.78

帝大より購入のサンスクリット 約250冊 ¥247.39

〃 50冊 ¥613.75

大蔵経 50冊 ¥800.00

Alfred Loreutz からのもの 100冊 約¥440.00

Hellersberg からのもの 9冊 約¥300.00

合計 498冊 約¥5,737.92

申告額 500冊 ¥6,000.— 8箱

十一月十四日

大倉氏、長野氏、荒木氏、山本氏、原田五名、太尾土

地再検踏。

十一月廿日

原田、新図書館のスケッチを持って、大橋図書館に竹

内氏を訪れ、種々意見をたゞす。

十一月廿一日

同上の如く藤原猶雪氏訪問。意見を聞く。

十一月廿三日

太尾事業地裏の池水一升、東京市衛生試験所へ汽罐用

適否検査を依頼する。

本月五日附ウィーン発坂戸智海氏の書信に基き、下記の通り打電す。

1 WALLESER, GOFTHSTR.12, HEIDELBERG.

SENDE 1000MARK BANKANWEISUNG. OKU

RA. ¥15.03

2 SAKADO, ANTONFRANKG. 7, WIEN, SHOCH

ISHITA. OKURA. ¥10.02

十一月廿四日

独逸 Heidelberg, Prof. Walleser 宛ニ、横浜正金銀行

送金手形 R. M. 1,000.— (¥518.13) 手紙同封の上送る。

十一月廿九日

第四回図書館建築打合せ。大倉、長野、荒木、原田。

書庫と殿堂の坪数を幾分増し、大体前回のスケッチ

の通り決定。

ホステルのスケッチも出来る。

十一月卅日

午後、深川図書館訪問。田所氏と談ず。

十二月一日

三日より京都に於て開催の全国図書館大会に出席のため、原田、西下。

三日

第三高等学校校進徳館に於て大会開会式。文部省諮問案討議、協議会。

四日

龍谷大学講堂に於て研究発表。本願寺書院見物。

五日

大谷大学講堂に於て協議会。午後、見学（大谷大学図書館展覧会）。

六日

御大礼式場拝観。修学院離宮、京都府立図書館展覧会。都ホテル懇親会。

七日

京大に於て協議会。帝大展覧会。閉会式。

八日

名古屋図書館、見学。

九日

帰京。

太尾土地検査員、雇入。

太尾池水適用検査済（東京府衛生試験所）。

十五日

原田、藤原氏訪問。

廿九日

太尾土地実測、終了。大橋氏にKINGOへ渡す。

昭和四年

一月中旬

藤原猶雪氏提案、認可。

帝大史料編纂室に集る各地社寺の古文書中、精神文化に関係あるものだけを描写して、当図書館に保存する事。その具体案、別紙の通り。

一月廿五日

大東工業・望月氏、大倉氏と共に、理化学研究所へアドリール参観に行く。

一月卅日

大倉氏、山本氏、荒木氏と共に、再び理研にアドリールの参観に行き、更に望月氏、外山氏を加へ、農林省の米穀倉庫に、その実施状態を見学す。

間宮商店へ注文の選択箋並に事務カード、到着。先づ従前のカードを選択箋に移写し始む。

二月一日

図書館事業経過報告を兼ね、下記諸氏に招待状を出す。

木村泰賢、宇野円空、植木謙英、布施洪岳、西義雄、原田敏明、大塚道光。

二月二日

東京会館に、学者招待。

出席者 木村泰賢、宇野円空、植木謙英、布施洪岳、原田敏明、大塚道光。

二月三日

藤原猶雪氏、来訪。

史料編纂の事、精神文化図書館の内容につきて討議す。

二月八日

藤原猶雪氏に、大谷大学和漢書目録一冊並に下記のカードを持参す。

仏教辞典類 14 真言宗 30

〃 目録類 5 唯識系書類 26 真言宗 31

藏経並叢書類 26 仏典研究雜部 54 宗論 4

年表記伝類 11 仏教美術史蹟類 13 法相宗 15

原始仏教書類部派仏教西域仏教 62 真宗 41

三論宗華嚴宗 11 華嚴宗 21 俱舍宗 10

浄土宗 27 真言宗浄土門 8 日蓮宗 5

天台宗日蓮宗 23 天台宗 19 戒律宗 13

禅宗 22 浄土宗 42 法相宗 21

二月十二日

下記の諸氏に、招待状を出す。

伊藤吉之助、高橋穰、大室貞一郎、留岡清男。

二月十八日

下記の諸氏に、図書館趣旨書の斧正を乞ふ。

木村泰賢、友枝高彦、補永茂助、藤原猶雪。

東京会館招待会（午後五時半）。

出席者 高橋穰、大室貞一郎、留岡清男、大倉邦彦、

原田三千夫。

図書館建築説明、事業経過、研究所の趣意説明。

二月十九日

東京帝大史料編纂所主事・辻善之助氏、藤原猶雪氏を、

星岡茶寮に招待し打合。懇談会を開く。

二月廿日

建築打合（午後二時より三時迄）。

長野博士、大倉氏、荒木氏、原田。

下記の諸氏に、招待状を出す。

乙竹岩造、野々村運市、友枝高彦、補永茂助。

三月二日

午後五時半、丸ノ内常磐屋ニ於テ、倫理、教育、神道

方面諸氏、招待会。

出席者 友枝高彦、補永茂助、当方（大倉氏、原田

二人）。

十三日

東京会館に招待。

田中寛一、松本彦次郎、黒上正一郎。

十日

太尾土地検見。

長野博士、大倉氏、荒木氏、其他技師、随行廿名。

廿日

辻氏へ三越商品切手300円、藤原氏へ同上200円、謝礼と

して持参。礼状別紙ノ通。

三月卅一日ヲ以テ、下記ノ依願書ヲ提出ス。

願

当所ハ精神文化ノ振興ニ寄与セントシテ設立セルモ

ノニ有之、コノ目的達成ノタメニ当所附属図書館ニ

於テハ、予テ宗教、教育、倫理、心理、国史、其他

精神文化ニ関スル内外ノ図書ヲ蒐集蔵置致居候処、

貴学史料編纂掛ニ於テ諸方面ヨリ御借入ノ古文書古記録ノ中、之ニ該当スルモノ尠カラズト存ジ候ニ付テハ、貴学史料編纂掛御所要ノモノノ中、直ニ謄写ノ運ニ至ラザルモノ、並ニ当所々要ノモノヲ謄写ノ上、副本ヲ作製シテ該図書館ニ架蔵シ、永ク貴学並ニ当所研究ノ資ニ充テ度候。何卒特別ノ御詮議ヲ以テ右閲覧並ニ謄写方、左記条件ニ依リ御許可相成度、此段奉願候也。

昭和四年三月 日 (官言)

東京市日本橋通一丁目二番地(仮事務所)

精神文化研究所所主

大倉邦彦 〔所主ノ印〕

東京帝国大学総長 小野塚喜平次殿

条件

- 1 謄写スヘキ図書ハ、予メ当所ヨリ其所藏者ノ承諾ヲ得、右承諾書ヲ史料編纂掛ヘ提出スルコト
- 1 謄写及校正ノタメ、予メ史料編纂掛ノ承認ヲ得タル所員ヲ同掛ヘ差遣ノコト

但、右所員ハ同掛ノ執務規程ニ準拠シ、掛内ニ於テハスベテ同掛事務主任ノ監督ヲ受クルモノトス

- 1 謄写済ノ図書ハ、当所図書館ニ架蔵シ、史料編纂掛ニ於テ要用ノ際ハ貸出ニ応ズルコト

以上

三月卅一日日附ヲ以テ、下記ノ通り、辞令ヲ出ス。

契

菊池善之

精神文化研究所附属図書館謄写図書校正係ヲ囑託ス

昭和四年三月十日 〔図書館印〕

精神文化研究所々主 大倉邦彦 〔所主ノ印〕

契

葛巻常四郎

精神文化研究所附属図書館図書謄写係ヲ囑託ス

昭和四年三月十日 〔図書館印〕

精神文化研究所々主 大倉邦彦 〔所主ノ印〕

同上ノモノ 野口廣二、伊藤卜外、島田保治

写字生囑託 菊池兼亮、渡辺好重

三月廿三日

正午、藤原猶雪氏、来訪。史料編纂ノ件相談。

二時、長野博士、荒木技師、来訪。東京横浜電鉄土木

課ノ人来リ、太尾新買増地ノ件依頼。

八時半、大倉氏、西下。

三月廿六日

夜、原田、藤原氏ヲ訪問。研究所要覽ノ事相談。

独逸フランク教授遺稿出版ノ事ニ関シ、渡辺海旭師ヲ

訪問。

三月廿七日

史料編纂掛へ俸給辞令、別冊控ノ通り交付。

廿九日

荒木氏ヨリ、設計図（研究所要覽用）受取。

下記数氏へ、別紙礼状差出ス。

原品出納責任者 伊木寿一

原品出納掛 井原喜芳

水野靖治

庶務会計責任者 田中慶二郎

庶務

田辺富吉

会計

足立庄之助

史料編纂掛図書謄写ノ件、東京帝国大学総長ヨリ本月

廿五日附ヲ以テ許可ノ旨、辻氏ヨリ通知アリ（廿八日

附）。

目黒駅・五島氏ヨリ、太尾水道工事本年六月迄ニ開通

ノ旨、通知アリ。

四月九日

大倉氏、帰京。

研究所要覽、漸次進捗。

十一日

川野氏、出勤。

十二日

牟田君、出勤。午前中。

東洋タイプライター購入。タイピストノ出張教授ニヨ

リ練習開始。

十三日

大正新修大蔵経続刊和装廿八冊、予約申込。

十五日

鈴木君、出勤。

三並文庫ビール箱四個、洋紙店倉庫ニ保管。

廿二日

岡山市弓之町134 秋山書店より、伊勢貞丈著書118冊、

到着。代金¥1151送金。

史料編纂掛へ、諸経費トシテ¥10001持参。

廿三日

皇学叢書並復古記申込、代金¥1711。広文庫刊行会

主事・望月氏ニ渡ス。

L. C. Smith Typewriter、黒沢商店ヨリ購入。

廿四日

皇学叢書十冊、到着。

五月三日

大倉氏、帝大史料編纂掛参観。

五月四日

研究所要覧五十部、出来。

五月六日

研究所要覧二百部、出来。百八部、史料編纂掛へ届ク。

五月八日

建築打合せ。洋紙店にて。長野、大倉、荒木、原田。

研究所要覧二千部、出来。

五月九日

研究所用植木、買入。

五月十三日

下記辞令ヲ、編纂掛ニ届ケル(七通)。

依願解嘱

写字生 菊池義亮

図書贍写係嘱託

門田泰寿

月俸 金四拾円給与

全上

写字生嘱託

鈴木タマ

全上

辻 貞

日給 金壹円貳拾銭給与

鈴木タマ

全上

辻 貞

五月十三日(続)

大倉氏、荒木氏、原田、独人ワイヂンゲルノ案内ニテ、

東郷坂教会ノ Pipe Organ 見学。

藤原氏、来訪。(本頁) 侯所藏図書買取ノ件相談。

六月十一日

貴重図書副本作製部員へ招待状ヲ出ス(十四日金曜日午後一時半日黒駅集合、太尾、幼稚園參觀ノ後、晚餐)。

辻、藤原、伊木、田中、足立、田辺、井原、水野、菊池、葛巻、野口、島田、伊藤、門田、渡辺、鈴田、
辻 十七名。

六月十四日 金曜日 曇天

午後一時、副本作製部員、葛巻氏ヲ除ク十六名、大倉邸ニ来集。喫茶ノ後、芙蓉荘、幼稚園、太尾ヲ見、午後六時、工業倶楽部ニ於テ晚餐。八時半、散解。

当方出席者 大倉、原田、河野。

六月十九日 水曜

午前九時、藤原氏ノ来訪ヲ待ツテ、大倉氏、原田、川野、一緒ニ原宿ノ榊原家へ購入ノ図書ノ引取りニ行キ、午後一時半、全部史料編纂掛ノ貴重品倉庫ニ収メル。

七月三日

大倉氏、佐賀へ出発。

七月四日

原田、史料編纂掛ニ藤原氏ヲ訪レ、

1. 新図書謄写係採用ノ件
 2. 帝大へ明史叢一部八十冊寄贈ノ件
 3. 葛城氏へ50円見舞ノ件
- 等ニツキ話ス。

七月五日

藤原氏ヨリ、榊原家へ書籍代金支払ノ請求アリ。早速大倉氏へ照会電報ヲ送ル。

サカキバラヘノホンダイ3300セイキウアリ ヘンジ
コウ ハラダ

七月六日

大倉氏ヨリ返電アリ。本代会計ニ頼メ。

七月七日

榊原家後見人・井伊直方氏ニ電話ニテ、明日午前中ニ本代支払フベキ旨話ス。

七月八日

下記辞令、交付。

沼田喜雨太郎

十月一日

囑託精神文化研究所附属図書館図書謄写係

下記ノ通り、謄写許諾状来ル。

自今月俸四拾五円也

大谷大学図書館

榊原家扶・長谷川氏、来店。書籍代¥3500。―三井銀行小切手ニテ支払フ。

公武御八講引付 一冊

七月十一日

山田幸太郎(名古屋市中区小林町四三)

帝國大学図書館ヨリ、明史藁寄贈ニ対スル礼状受取。

後七日御修法事 一卷

九月六日

十月五日

大倉洋紙店新館へ仮事務所を移す。

東京横浜電鉄ヨリ、下記氏名宛優待乗車賃、受取。

九月廿一日

荒木孝平、小畑徳松、原田三千夫。

副本作製部へ小切手¥1000―持参。

十月九日

副本ノ解説ヲ月一回大倉洋紙店デ行フノ件、相談。

下記ノ通り、謄写許可書来ル。

九月廿八日

鷹見久太郎

荒木、小畑、竹中組二人、原田、太尾現場視察。

鷹見泉石日記等 八十四冊

九月卅日

十月九日

長野、荒木、大倉、原田、研究所建築相談会。午後二時、大倉洋紙店。

建築協議会。

本設計完成。工事見積書、工事者竹中組等、決定。

出席者 五島、篠原、長野、荒木、大倉、原田。

場所 大倉洋紙店。

協議事項、別冊控ノ通り。

十月十日

午後四時、藤原猶雪氏、来店。

協議事項

1. 副写本ノ表紙ハ研究所特殊ノ色ヲ用ヒ、大倉家ノ梅鉢ノ紋ヲ附スルコト

2. 写本解説報告引受ケ、特殊ノカードヲ作製シテ、之ニ記入シ置ク事

3. 大倉精神文化事業関係者ノ忘年会ヲ年末ニ開ク事

4. 榎原文庫ハ尚未暫時史料編纂所ニ保存シ得ル

5. 学者人名簿作製ノコト

十月十四日

下記ノ通り、謄写許可書受入。

京都府天田郡上夜久野村直見 高源寺 野村快澄

頤賢録 乾坤 二冊

嘯岳録 上下 二冊

十月十六日

建築協議会。長野、荒木、大倉、福本、原田。

十月十九日

三井物産機械部宛ニ注文書、第一号第二号ノ通り注文ヲ発ス。

大倉氏ヲ大倉精神文化研究所所長ト決定ス。

十月廿一日

十月一日附ヲ以テ、下ノ通り、辞令ヲ交附ス。

契)

小幡徳松

大倉精神文化研究所建築現場監督ヲ嘱託ス

〔印〕昭和四年十月一日

大倉精神文化研究所所長 大倉邦彦印

石井延三

大倉精神文化研究所建築現場監督ヲ嘱託ス

建築現場監督 小幡徳松

月俸—金 百拾円也

手当—金 四拾四円也

自今右給与候也

建築現場監督

石井延三

月俸—金 五拾円也

手当—金 拾五円也

研究所事務手伝・原田文雄、都合ニヨリ嘱託ヲ解ク。

十月廿三日

小幡氏尊父死亡ニ付、悔状ト香典拾円、荒木氏ニ託送ス。

三井物産・川口氏、荒木氏、原田、午後三時、会合。

Stack 注文ノ件協議。

1. Stack ノ幅ヲ決定スル事

2. 今一度、Stack ノ plan ヲ作りテ検見スル事

3. Stack ノ注文ハ delivery ノ時期ヨリ返リテ六ヶ

月トナス。delivery ノ時期ハ今後約一ヶ年後ナ

リ

4. card case 中ノ準備ス

5. 為替換算支払銀行ハ正金

竹中工務店ヨリ、第一期工事見積訂正書、受人。

十月廿五日

竹中工務店・福本氏、来談。

十月廿六日

原田、荒木氏ヲ訪レテ、建築士ニ対スル報酬ハ、建築材料当方提供ノ如何ニ拘ラズ、建築費(材料ヲ含ム)ノ所定歩合ヲ提供スル事ヲ通知スル。

十月廿七日

精神文化研究所大倉洋紙店合同大運動会ヲ、太尾村大綱小学校デ挙行。

十月廿八日

下記ノ通り、謄写許可書受人。

京都府葛野郡花園村御室仁和寺

座主相承大事

参卷

悉雲字記抄

式册

梅尾明恵上人伝記上下(残闕)

式綴

卷数用意集

壹帖

華嚴修禪觀照入解脱門義卷上

壹帖

御葬送作法

壹册

四十九院曳覆梵字等

壹册

特戒清浄印信

壹包

宗要記 壹冊

中臣祓 壹卷

秘鍵初心抄抄卷五 壹卷

高野頼慶書狀 壹冊

廿九日

長野氏報酬請求書ヲ、荒木氏持参ス。

金額¥12,150,000

但シ、建築工事費ヲ¥370,000、書架工費ヲ¥35,

000ト看做シ、合計¥405,000、ノ3/100

十月卅日

午前九時、太尾敷地ニ於テ、地鎮祭ヲ行フ。

神官ハ熊野神社ノ人

出席者 大倉、折居、谷本、上方、山本、原田、

荒木、小幡、石井。

竹中 福本、橋本。

地鎮祭後、撮影ヲナス。

建築士報酬¥105,000、三井銀行小切手ヲ以テ荒木氏

ニ渡ス。

建築契約締結ハ、大倉氏帰京後トナシ、早速建築ニ取

リカ、ル事ニ決定ス。

下記ノ通り、写本承諾書、受取。

京都府愛宕郡大原村三千院門跡堀恵慶

慈覚大師縁起 一冊

拾珠抄 十五冊

慈恵大師講式 一卷

貞心三年十一月十日恒例書立 一卷

東山殿座敷飾 一卷

山田勝ニテ、事務員トシテ採用ス。

十月卅一日

長野博士、報酬謝礼ノタメ来店。

所長、午後九時廿分ノ急行ニテ西下。四国九州講演旅

行ノタメ。

十一月一日

原田、田中ト共ニ駒沢ノ共楽園ニ赴キ、研究所用ヒマ

ラヤシダ―百七十八本購入ス。

十一月二日

長野、荒木、原田、午後ヨリ太尾ニ行き、建築現場ヲ
撮影ス。

十一月四日

竹中ヨリ、鉄骨材料表、受取。

下記承諾書、受入。

京都府葛野郡梅畑村梅尾山高山寺住職土宜覚了

御夢記

明恵上人手鏡

明恵上人夢記

梅尾御物語 (3)

梅尾御物語 (3)

明恵上人夢の記

上人物語類

行状抄上

上人伝記遺拾

上人記

明恵上人伝記拾遺

梅尾山明恵上人伝上下

〔明恵上人後編旅行記〕
最後臨終儀式

色表紙一冊

却廢忘記

二冊

〔明恵上人之事〕
上人之事禪淨房記

一冊

梅尾明恵上人物語

一冊

梅尾御物語上下

二冊

梅尾上人御製作目録

色表紙一冊

〔明恵上人所作目録〕
上人所作目録

一冊

華嚴血脈

一通

〔菩提院行遍附法弟子名親書〕
菩提院前大僧正行遍附法二十一人之内抜書

一通

上人御作

一卷

梅尾上人御遺訓抄出(高山随聞秘密抄ノ方

ハ不要) 卅三片

一卷

明恵上人行状上中下別記

計四冊

以上、計式拾四点

十一月六日

原田、横浜ノ弘明寺図書館ヲ視察ス。

十一月七日

太尾現場所用品買揃へ、小幡氏ニ渡ス。

英独ノ図書館器具製作所へ、型録ノ送附ヲ申込み。

十一月十一日

独逸 Alfred Lorentz 書店より、本代MK.279.60(138.41)

送附(請求書十月一日附)。

十一月十三日

原田、太尾ニ出張。

十一月十四日

下記承諾書、受入。

名古屋市中区東川端町一ノ三五 水谷文一

問答書断簡

法華事
五云々

夜暨林
云々々

式枚

ク

意ハ此
ニ云々々

之ヲ
交云々

式枚

長野博士ニ対スル優待乗車券請求書ヲ、東横五島氏宛

ニ出ス。

十一月十六日

東横電鉄ヨリ、長野博士宛優待乗車券、送附シ来ル。

十一月十八日 月 曇

太尾現場縄張実測。大倉、荒木、原田、現場諸員。

十一月廿日

建築協議会。大倉、長野、荒木、原田、竹中ノ人。

午後二時、大倉洋紙店社長室。詳細別冊ニアリ。

柿原家ヨリ購入ノ図書目録ヲ謄写シ、三通、史料編纂

藤原氏宛ニ送ル。

十一月廿二日

三井物産ヨリ、Stackノ訂正見積受入。早速訂正文

發送。

十一月廿五日

太尾大乘寺ヨリ買収ノ土地登記ノタメ、上方氏、横浜

出張。

浅野セメント株式会社ヨリ、セメント見積書受入。

170■入貸袋8000袋@¥2.50。

東京電燈ハ配電工事費無料、配電装置無料貸ノ件、承

諾。

十一月廿八日

太尾現場、電線移動ノタメ、松一本伐截ノ事、小幡氏

ニ承認。

浅野セメント株式会社へ、見積書ノ通り注文書ヲ出ス。

十一月廿九日

鉄筋ハ大体日本鋼管ヨリ買入ノ事ニ決定ス。

竹中ノ福本支配人、来訪。

十一月卅日

東京横浜電鉄ヨリ、優待乗車券四枚（長野、荒木、小幡、原田分）受取。

十二月二日

原田、太尾ニ出張。

1. 太尾現場員服調製ノ件

2. 現場監督詰所保険ノ件

神奈川県庁ヨリ、建築許可書下附。

十二月四日

浅野セメント株式会社ヨリ、注文請書受入。

三井物産ハ card case ヲ Section 持参スル事ヲ頼ム。

下記承諾書、受入。

台北市東門町（二条通）一六〇 神田喜一郎

一 後深草院御仏事記 嘉元三年山階左府実雄公記

一卷

一 〃 〃 七月自十日至十三日 〃

一卷

一 嘉元三年三月日願文

一卷

Stack ノ plan 出来。

十二月五日

藤原猶雪氏、来訪。賞与金ノ件、協議。

十二月十三日

副本作製部員及関係者賞与金ヲ届ケル。

大倉氏、太尾ヨリ発掘ノ古石器石斧類ヲ持チ帰ラル。

十二月十四日

藤原氏ヘノ謝礼金参百円、原田持参。

辻氏ヘノ謝礼金参百円、牟田持参。

研究所石膏模型、出来。

十二月十六日

朝、原田、太尾出張。

十二月十九日

十二月一日附本契約書（研究所建築）ニ捺印ノ上、一

部（正本）ヲ本所ニ留メ、副本ヲ建築士ヲ通シテ竹中

工務店ニ渡ス。

研究所追加工事、中央塔屋両翼小屋組鉄骨屋根コンクリート打、見積書入手。

午後五時半、丸ノ内工業倶楽部ニ於テ、精神文化研究所関係者（四十名）ノ忘年会ヲ開ク。

十二月廿九日

藤原氏、原田、神田ニテ書物ヲ渙ル。

十二月卅日

越田氏、法隆寺ノ絵ヲ持參。

十二月卅一日

心ノ使一月号原稿、編輯終ル。

夜、神田ニ書籍ヲ買ヒ歩ク。

昭和五年

一月一日

大倉一家族、暁天、太尾ニ於テ遙拜式ヲ行フ。

一月三日

藤井、原田、佐賀工芸学院ニ出張。

一月九日

原田、帰京。

発掘ノ古石器土器ヲ文部省ニ持參シ、古谷氏ノ鑑定ヲ受ク（下村氏の紹介）。

一月十日

午後、古谷氏、来訪。古器再検。続イテ川瀬弁護士モ同道、目黒ニ於テ大倉氏ニ面会シ、更ニ三人太尾ノ現場ヲ実検ス。

一月十一日

大倉、原田、竹中組ニ福本氏ヲ訪レ、鉄筋ノ件打合。

一月十四日

朝、原田、太尾ニ出張。

鉄筋鉄骨ノ件、三井物産ヨリ筋②F82—骨②F93—11テ竹中ヲ通シ買入決定。

一月十五日

建築協議会。長野、大倉、荒木、福本、原田。

藤井氏、来訪。女学校ノ件協議。

一月廿二日

下記承諾書、受入。

三重県桑名町矢田町 竹内文平

二月四日

三宝院入壇記 神照寺中興開基実雄上人書写 五卷

童子経供養作法問答記 建保2925書写紙背消息アリ

東京横浜電鉄立合ノ上ニテ、太尾土地境界線檢視。

(四十八枚) 一綴

大倉所長、現場員ニ対シ訓話。

一月十五日附ニテ、森慶三ニ現場監督囑託辞令並月俸

午後四時半、長野博士、大倉所長、藤井氏、原田、水

六拾八円也、手当貳拾円給与、辞令交付。

谷氏宅へ建造中ノ礎碑検見。

一月廿四日

二月七日

岩波書店ヨリ、同店発行図書五百二十四部ノ寄贈ヲ受

増田、原田、山田、三人ニテ史料編纂所ノ写真撮影室

ク。

ヲ參觀。

心ノ使二号、印刷出来。

下記承諾書、受入。

一月廿五日

赤坂、青山南、六ノ八五正親町公和

三井物産へ、注文書第一号参部送附。

実連公御日記 五十八冊

原田、現場員ニ給料持参。

京都下条、小松、建仁寺塔頭両足院

一月卅一日

平家物語 大永年間写 十二冊

歛成院ノ土地70坪⑤ㄐ51ニテ買入ノ件、後合議ノ上、

奈良市登大路町興福寺

1100―追加購入ニ決定。

維摩会他事探題方諸下行 文明十六年甲辰十月十

下記承諾書、受入。

滋賀県坂田郡神照村 神照寺 一日 一冊

滋賀県坂田郡神照村 神照寺

一日 一冊

維摩会 文明二年二月十八日

形箱 一通

二月十四日

天文廿年八月吉日 示現受生曼荼羅

計二枚

竹中工務店ヨリ、土地(太尾) 鋤取見積書、受入

正保三年八月吉日 権大僧都正覚坊真純 十

(平79280)、承認。

二因縁口決

一通

二月十五日

修驗靈供作法添書

一通

文部省古谷氏、原田、太尾ニ出張。古跡ノ試掘ヲナス。

三月六日

二月廿一日

精神文化研究所事務所ヲ、大倉洋紙店六階ニ移動ス。

浅野セメントの請求書は、現場を通して当方支払の様

三月十八日

決定。

下記承諾書、受入。

左記承諾書、受入。

福岡県田川郡彦山村英彦山一三九八

一 願賢録 乾坤

二冊

男爵 高千穂宣磨

一 嘯岳録 上下

二冊

彦山流記 建保元年癸酉七月八日奥書

一卷

三月廿日

元禄丙子歳旦詩集 附歳暮詩

一冊

藤原氏、来訪。

本有修性敷曼荼羅

一枚

山崎藤吉ヲ校正係トシテ採用ノ件、決定。

天文廿年八月廿三日 度海修験法則

一通

三月卅一日 月曜

彦山由来記断簡

一通

午前、牟田、山崎藤吉ノ辞令ヲ史料編纂所内研究所副

享禄五年五月吉日 権大僧都賢栄印記

山臥結 袈裟事

一冊

本作製部二届ク。

夜、四月九日ノ定礎式案内状ノ一部（48通）ヲ發送ス。

四月一日 火曜

午前、九日ノ定礎式案内状ヲ全部發送ス。

四月二日 曇 水

午後四時ヨリ、原田、太尾ニ出張ス。

四月四日

午前、牟田、史料編纂所ニ行き、副本作製承諾書ヲ借
来ル。

午後、山田、太尾ニ出張。建築現場状況ヲ撮影ス。

四月五日 土

午後、礎碑ノ中ニ入レル所長ノ書物其他ヲ箱ニ詰メル
（荒木、増田、原田、立会ヒ）。

箱ハ厚桐箱ヲ釘付ケトシ、外部ヲ鉛箱ニテ覆ヒ、外気
トノ接触ヲ遮断ス。

下記ノモノヲ入レル。

私ノ使命事業、感想其一―其六、並其五合本、英文

感想 (My Thought) 1925 及 1926 両年度發行ノモ

ノ、大倉精神文化研究所要覧、心のつどひ（昭三・

三・五發行）、心の使第一号（昭四・十一・十五發

行）、全第二号（昭五・一・十五發行）、研究所設計

図12枚、農村工芸学院趣意並一覽、淨牧学院趣意一

覽、富士見幼稚園便覽、皇紀宣伝印刷物、商売往来

（昭三・四・廿八發行）、大倉洋紙店綱領（大正九・

一・十三發行）、小店員の心得（昭四・三）、店歌、

民歌、東京日々新聞（昭和三・七・廿朝刊）、大阪

毎日新聞（昭和三・七・廿三朝刊）、Japan times（昭

和四・三・十七）、東京朝日新聞（昭和四・十・廿

四夕刊）、大阪朝日新聞（昭和四・十・廿四朝刊）、

東日朝日新聞（昭和五・三・廿六夕刊）

原田、太尾ニ出張。東横電鉄員及ビ竹中店員ト共ニ、

九日鎮礎式ノ準備打合せヲナス。

四月七日 月

午前、牟田、史料編纂所ニ副本作製承諾書ヲ返戻ニ行
ク。

午後、原田、山田、太尾ニ出張ス。九日鎮礎式ノテン

ト、礎碑台及ビ石器土器ヲ、太尾ニ運搬ス。

夜七時ヨリ、目黒大倉邸ニ於テ、富士見会ヲ開キ、九

日鎮礎式ノ準備打合セヲナス。

本日、鈴木、出勤。

四月八日 火

原田、太尾ニ出張シ、明日鎮礎式ノ準備ヲナス。

浄牧院ヨリ、片岡氏手伝ニ来ラル。

四月九日 水

午前十時半ヨリ、研究所鎮礎式ヲ挙行ス。

四月十一日 金

午後、原田、太尾ニ出張シ、鎮礎式ノ後始末ヲナス。

山田、文部省宗教局史蹟保存課ニ、土器写真及建築現

状写真ヲ届ク。

四月十六日 水

原田、太尾ニ出張ス。

四月十九日 土

所長、原田、太尾ニ出張ス。

四月廿三日

午後、研究所事務所ニ於テ、所長、荒木、原田、建築

ノ件ニツキ協議ス。

委細ハ協議録ニ録ス。

四月廿五日

太尾現場監督員・小幡氏、来所。

四月廿六日

原田、太尾ニ出張ス。

四月廿八日

原田、山田、太尾ニ出張ス。

四月卅日

三井物産金物部ヨリ、「カードケース」一組、届ケ来ル。

五月九日

原田、竹中支配人・福本氏、山本氏（荒木事務所員）

ト共ニ、深川長島材木店ニ樫材ノ件ニツキ出張。打合

セヲナセリ。

五月十日

川野、図書館大会（上野ニ於ケル）ニ出席セリ。

五月十一日

原田、図書館大会ニ出席セリ。

五月十二日 月

原田、図書館大会ニ出席。

野口、出勤ス。

五月十三日

鈴木、出勤ス。

原田、午後、太尾ニ出張ス。

五月十六日

大野製作所へ Steel case 244個ノ注文書ヲ發送ス。

五月十七日

午後、原田、太尾現場ニ出張ス。

五月十九日

朝、所長、原田、太尾現場ニ出張ス。

牟田、副本作製部ニ小切手 ¥1000.00 持參。

心の使第三号出来ル。

所長、今夜東京発。佐賀学院へ旅行。

五月廿日

普禮之助氏へ、図書寄贈方依頼状ヲ發送ス。

五月廿日

長島商店へ、櫟材ノ注文書ヲ發送ス。

心の使(三)ヲ發送ス。

五月廿三日

山田、牟田、副本作製部へ書籍18冊ヲ届ク。

五月廿六日

原田、太尾、浄牧院ニ出張ス。

五月廿七日

所長、九州旅行ヨリ帰京。

五月卅日

午後、原田、太尾現場ニ出張ス。

六月壹日

所長、現場視察。

六月三日 火

午後六時ヨリ、研究所事務所ニ於テ、所員一同懇親談

話会ヲ開ク。注意や意見交換ヲナシテ、九時半散会シ

タ。

六月二日

Das Institut für Buddhismus-Kunde 中の Gahrbuch

des Instituts für Buddhismus-Kunde V.1.1 10冊寄贈

シ来ル。

六月七日

朝、原田、太尾ニ出張ス。

下記ノ処へ、Gahrbuch des Instituts für Buddhismus-Kunde V.1.1 ヲ、各一冊宛贈呈ス。

大谷大学、龍谷大学、京都帝大文学部仏教研究室、

日独仏教協会、東京帝大文学部印哲研究室、東洋大

学、日仏々教協会、日独文化協会、東北帝大文学部

仏教研究室

六月十一日

午後、原田、太尾現場ニ出張ス。

山県神奈川県知事宛発信（太尾敷地附近俗化防止ノ件、刺繍図案寄贈願ノ件）。

六月十八日

午前、原田、太尾現場ニ出張ス。

山田ト牟田ハ、菅禮之助氏寄贈ノ図書ヲ受取りニユク。

菅氏宛礼状、発送。

六月二十四日

島田商会宛、電気設備工事の詮文書ヲ発送ス。

委細別紙註文書通リ。

六月二十五日

午後二時東京発ニテ、所長、佐賀農村工芸学院へ旅行。

現場監督・小幡氏、来ル。

山田、史料編纂所内副本作製部へ使す。

六月二十八日

午後、原田、太尾建築現場ニ出張ス。

七月二日

午後、原田、太尾現場ニ出張ス。

七月五日

午前八時半東京駅着ニテ、所長、佐賀ヨリ帰京。

七月十二日（土）

午後、佐賀市ノ副島氏、来所。原田ノ案内ニテ事業一

般ヲ見学サル。

七月十六日（水）

盆祭ニツキ、午後三時迄デ。早退ケ。

原田、太尾ニ出張ス。

七月廿日

夜、一同、浄牧院新校舎落成祝ニ招カレテ行ク。

七月廿一日

朝、原田、太尾建築現場ニ出張ス。

野口、病氣欠勤。

全廿二日

野口、病氣欠勤。

廿五日

現場監督員・小幡氏、来所。

八月四日

朝、原田、太尾現場ニ出張ス。

野口、病氣欠勤ス。

八月十六日

原田、荒木建築士ト共ニ、太尾ニ出張ス。

八月十九日

牟田、史料編纂所ニ小切手ヲ届ク。

八月廿一日

午前、原田、太尾建築現場ニ出張ス。

八月廿七日

午後、原田、太尾現場ニ出張ス。

九月一日

所長、軽井沢ヨリ帰京。

九月四日

原田、午後、太尾ニ出張ス（電話設置ノ件）。

荒木事務所員・増田氏、来訪。

九月五日

所長、原田、太尾ニ出張ス。

九月六日

午後、山田、太尾ニ写真撮影ニ出張ス。

九月八日

島津公爵家ヨリ、写本承諾書一通来ル。

九月九日

竹中工務店ヨリ、第二期工事見積書来ル。

九月廿二日

研究所用特設電話加入申請書ヲ提出ス。

上記電話加入便宜ノ為、研究所所在地ヲ仮ニ横浜市

神奈川区大曾根町749番地トシテ申請ス。

十月九日

所長、佐賀ノ農村工芸学院へ旅行。

十月十九日

所長、旅行ヨリ帰京。

中等教育談話会員其他、太尾ノ研究所ヲ見学ス。

十月廿六日

図書選択ニ関係セル学者ヲ、太尾ニ招待ス。

十月三十日

川野、秋山ハ、学ビノ会バザーノ準備手伝ニテ欠勤ス。

十月三十一日

全上。

十一月一日

原田、山田、川野、秋山ハ、バザーノ手伝ヒニ行ク。

十一月三日

山田、牟田、川野、秋山、バザー手伝ヒ。

十一月十一日

山田、太尾へ現場撮影ニ出張ス。

十一月十四日

原田、太尾現場ニ出張ス。

十一月十六日

洋紙店主催ノ奥多摩探勝ニ、研究所ヨリ山田、牟田参

加ス。

十一月卅日

所長、今朝、東京駅発。浜松ノ修道会ニ出張ス。

十二月六日

所長、浜松ノ修道会ヨリ帰京。

十二月十一日

太尾ニ於テ、村社遷宮式举行(午前十時)。所長、原田、

山田、参列ス。

十二月十二日

午前、原田、副本作製部へ出張ス。

十二月十八日

研究所関係者ノ忘年会ヲ、太尾ニ於テ催ス(委細別

記)。

十二月廿日

午後、網島郵便局ニ於テ、研究所電話番号ノ抽籤アリ。

原田、出張シテ籤キ、五十番トナル。

十二月卅日

川野、都合ニヨリ辞職ス。

皇紀二千五百九十一年（昭和六年）

一月一日

研究所員及建築監督員其他、太尾ニ於テ、暁天遙拝式

ヲ行フ。

一月六日

研究所事務始メ。

一月十七日

所長並ビニ原田、午後、太尾研究所現場ニ出張ス。

一月廿七日

午前十時ヨリ、太尾村社遷宮祭執行。所長、原田及ビ

現場監督員一同、列席。

一月廿八日

Petard 夫妻ヲ太尾ニ案内シ、夕方、所長宅ニテ晚餐

ヲ饗ス。

三月一日

太尾研究所ノ電話開通ス。

三月六日

太尾電話開通水道敷設祝賀会（網島村主催）アリ。原

田、列席ス。

三月八日

安行ノ松ヲ太尾ニ運搬ス。

三月九日、十日

松ヲ山上ニ引上ゲ、植付ク。

一月七日ヨリ松ノ根廻シニ着手シ、十数本ヲ大神宮ノ

裏ニ移植ス。

三月十日

日独仏教協会ハ、研究所事務所内ニ一室ヲ区切ツテ、

引越ス。

三月十六日

日仏々教協会ハ研究所事務所ノ一区ヲ画シテ、本日引

状ヲ以テ、夕翁誕生七十回ヲ記念スル Birthday volume
ニ寄稿スル日本ノ代表的哲学者、詩人及ビ小説家ノ推薦
ヲ依頼シ来ル。

詩人トシテ野口米次郎氏、小説家トシテ武者小路実篤氏
ヲ推シテ承諾ヲ得タリ。野口氏ヨリハ英文ノ詩稿ヲ得テ、
五月十三日之ヲ発送シ、武者小路氏ノ原稿ハ慶応義塾教
授・西脇潤三郎氏ニ翻訳ヲ依頼セリ。

哲学者トシテハ、初メ京大ノ波多野博士ヲ推薦セシモ、
同氏ノ都合ニヨリ承諾ヲ得ズ。井上哲次郎博士ヲ煩ハス
事トナル。井上博士ノ原稿ハ岡倉由三郎氏ニ英訳ヲ依頼
シテ承諾ヲ得タリ。
両者ノ原稿ハ一切切迫シテ、五月廿一日発送セリ。

四月十八日

所長、午後一時東京駅発ニテ、佐賀ノ学院入学式ニ臨
ム。

四月廿一日

副本作製部ニキ100000ヲ届ク(牟田)。

四月廿八日

所長、佐賀学院ヨリ帰京(午後九時廿分)。

四月卅日

神奈川郵便局ニ、郵便私書函設置願及使用延期願書提
出ス(山田)。

五月十日(十五日)

太尾村・前川清一郎氏ヨリ寄贈ヲ受ケタル樵ノ大木ヲ、
研究所西館前ニ移植ス。当日、村人有志十数名、手伝。

寄贈樵ノ木

四月上旬、太尾町・前川清一郎氏ヨリ、研究所山麓ニア
ル樵ノ木寄贈申出アリ。原田実地検踏ノ上、受諾決定。

当方ヨリ植木屋四名、所員四名、前川氏方ヨリ前川氏親
子三人、村有志十余名ニテ、五月十二日ヨリ十五日迄ニ
渡リ、三日ニテ移植ヲ終ル。樹令約三百年、丈約四十二
尺、周り目通り六尺、運搬時ノ重量約八百貫。

五月十五日

所長、武者小路実篤氏ヲ研究所ニ案内ス。

五月十八日

所長、宮本正尊氏、武藤叟氏、高月氏、目黒氏及び研究所員一同ハ、千葉市川ノ桐谷洗鱗氏宅ヲ訪ヒ、同氏蒐集ノ印度仏教美術品ヲ拝観ス。

五月廿三日

目黒所長宅ニ於テ、中等教育談論会ヲ催ス。

五月廿五日

本日ヨリ、事務所移転準備ノタメ書籍箱詰開始。

五月廿六日

荷物（書籍）、太尾ニ運搬開始（井上運送自動車）。

移転通知葉書、発送。

五月廿八日

事務所ヲ太尾ニ移ス。残務整理ノタメ、牟田、倉地、大倉洋紙店五階ニ、日仏、日独仏教協会ト共ニ残留ス。

五月卅一日

所長、来所（同行三名）。

六月一日

本日ヨリ、神奈川郵便局私書函使用開始。

六月二日

農園ヨリ蘇鉄ヲ移植ス。

六月三日

原田、東京事務所ニ出張。

水谷川男爵、小島文鼎両氏ヨリノ写本承諾書（写）各

一通宛送り来ル。

六月四日

所長、来所。

大阪暖房ヘダクト工事、三機工業ヘ水道揚水設備工事、

各々註文書発送。

六月五日

原田、東京事務所ニ出張。

六月六日

所長、来所。

六月七日

富士見幼稚園母の会（大倉園長外十名）、来所。

六月八日

神宮文庫ヨリノ写本承諾書写シ、送り來ル。

現場監督住所ヲ山下ニ、事務所ヲ建物内ニ移転ス。

六月九日

所長、友松円諦氏外三名ヲ伴ヒ來所。

原田、東京事務所ニ出張。日仏々教協會ニ出席。

午後五時ヨリ、目黒大倉邸ニ於テ、友松円諦氏歡迎談

話会アリ。所員一同出席。

ヒマラヤシダヲ書庫前ニ移植ス。

六月十日

阿部六中校長、原田文雄氏、來所。

六月十二日

原田、東京事務所ニ出張。

電話機設置場所、移転。

旧建築事務所建物移動、準備開始。

六月十三日

午後三時、所長、服部宇之吉、狩野直喜、坪上貞二、

伊集院兼清、江戸千太郎、岩村成充、荻野仲三郎ノ諸

氏ヲ案内シテ來所。

農園ヨリ、ヒマラヤシダヲ移植ス。

六月十四日

〃 十五日

午後五時ヨリ、日本橋大倉洋紙店ニ於テ、中等教育談

論会開催。原田、秋山、出席。

〃 十六日

所長、來所。

倉地、石川兩名、自動車ニテ、東京ヨリ残り荷物ヲ持

參ス。

宮本、午後ヨリ、東京ニ行ク。

〃 十七日

午後五時ヨリ、日本橋大倉洋紙店ニ於テ、中等教育談

論会開催。原田、秋山、出張。

宮本、徴兵検査ノタメ青森へ帰郷。午前九時上野発。

〃 十八日

所長、午後一時東京駅発。佐賀女子工芸学院へ旅行。

鶴見高等女学校職員・中根環堂氏外廿三名、來觀（午

后三時）。

篠原三千郎氏ヨリ、双眼鏡ノ寄贈ヲ受ク。

〳 十九日

原田、東京事務所ニ出張。

中等教育談論会ノ公民科教授科目ニ関スル執筆依頼書

ヲ、会員ニ発送。

〳 廿日

磯部氏立会ノ上、移植松樹本数ヲ調ブ。全時ニ地境杭

打ヲナス。立会（森、山田）。

〳 廿二日

柴田建鉄工材所ニ対スル玄関ドア及ビ車寄手摺注文

書、発送（柴田建鉄、荒木事務所）。

六月廿三日

太尾村・前川清一郎氏ヲ介シ、村有志ヨリ櫻ノ寄贈申

込アリタルニヨリ、実地踏査ノ上、受贈スベキ樹ヲ定

ム。

六月廿四日

佐倉金庫店ヨリ、鉄製戸柵ヲ購入ス。

六月廿五日

東京事務所ニ於テ、中等教育談論会委員会ヲ開ク。原

田、出席。

山田、東京事務所ニ出張。

牟田、東京ヨリ江下清一氏（本年東亜同文書院卒業）

ヲ全行、本日ヨリ富嶽荘ニ宿泊。

六月廿七日

午後、附近小机城趾見学（原田、岡崎、山田）。

夜、目黒ノ邸ニ於テ、天岫接三氏ノ宗教講話アリ。

所長、午後八時廿五分東京駅着ニテ、佐賀ヨリ帰京。

大沢早大教授、水道工事ノ件ニテ来所。

六月廿八日

所長、来所。全行一名。

六月廿九日

農園ヨリ移セル椎ノ樹植付、手伝ヲナス（江下、岡崎、

山田）。

六月卅日

前日全様、落葉松植付、手伝ヲナス。

午前中、所長、高月、目黒氏、来所。

原田、日本橋事務所ニ出張。

七月一日

前日全様、植木手伝ヲナス。

午前中、所長、前川氏、来所。

七月二日

宮本、昨夜帰荘。本日ヨリ出所。

夜、目黒大倉講堂ニ於テ、原田老師ノ宗教講話アリ。

一同出席。

秋山、午后ヨリ目黒へ。

七月三日

午前中、植木手伝ニテ、前川氏ノ竹藪ニ至リ落葉松添

竹用ノ竹切りニ行ク（江下、宮本、山田）。

午後、所長、杉本氏（本年帝大法科卒業）ヲ伴ヒテ来

所。

増田氏、来所。

原田、午後、横浜（エム・デンニ行ク）ヲ廻リテ東京

ニ行ク。

七月四日

午前中、前日全様、竹切り。午後、植木ノ手伝、落葉

松ノ手入ヲ全部終ル。

夜、目黒講堂ニ於テ、海軍々医大佐・田代氏ノ神界医

学ノ講演アリ。

七月五日 日曜

七月六日

昭和石材ニ、註文書發送。

農園ヨリ、躑躅ヲ運搬ス。

山田、東京事務所ニ行ク（水道敷設工事費其他）

日本フェルト株式会社ヨリ、毛布ヲ送り来ル。

本日ヨリ、朝ノ学科前ニ聖賢典ノ朗読アリ。

七月七日

倉地、本日ヨリ勤務。演習ノタメ入隊。

前庭築山ニ芝ヲ張ル。

午後、所長、来所。

七月八日

午前七時半、所長、牟田来所。躑躅植手伝。

所長、原田、牟田、午後ヨリ日仏々教協会ノ理事会へ。

七月九日

午前七時半、所長、牟田、来所。雑草除り。

所長、午後ヨリ社会教育協会へ。

島貿易商会、三機工業、日本アトメタル、矢橋大理

石店、各々へ註文書発送（八日夕方）。

岡崎、綱島郵便局ニ電話移転料支払ニ行ク。

七月十日

工事場従業員一同ニ、所長揮毫入り手拭ヲ配与ス。工

事場百五十八人（一枚宛）、監督、竹中事務所五人（二

枚宛）。

七月十一日

所長、東京金鋼重役・田中治之助氏同道、来所（午前

十時）。

故田中次郎氏へ、香典トシテ金廿円ヲ贈ル（中等教育

談論会ヨリ）。

三機工業へ、註文書発送。

七月十二日

七月十三日

七月十四日

所長、来所。

午後、洋紙店ニ於テ、中等教育談論会ノ臨時会合アリ。

出席者 阿部校長、常田校長、吉澤校長、大倉所長、

原田。

七月十五日

中等教育談論会案内状、発送。

島田商会へ、寄宿舎配電工事註文書、発送。

牟田、本日午後ヨリ、日本橋事務所ヲ引揚グ。

建築作業場ハ、今明二日、盆休業。

七月十六日

所長、来所。

七月十七日

和田三造画伯、武藤氏同道、所長、来所。

七月十八日

中等教育談話会ヲ、大倉洋紙店ニ於テ開催ス（午後五

時ヨリ）。所長、原田、牟田、出席。

七月十九日

午前八時、所長、洋紙店重役、參觀。

東京 折居、谷本、上方、石黒。

大阪 菅野、齋藤。

午後、大倉家墓参。原田代参。

四時ヨリ、洋紙店賞典授与式ニ同参列（目黒ノ邸）。

七月廿日

湿気防止ノタメ、本日ヨリ事務所内ニ炭火ヲ焚ク。

原田、午後ヨリ日本橋ニ出張。

七月廿一日

原田、本日ヨリ一週間、（午前中）國學院大學夏期講習会ニ出席。

流末工事許可申請書並ニ流末工事竣成届ヲ、横浜市長ニ提出。

邦文タイプライター一台、秋山タイプライター商店ヨリ購入。

牟田、本日ヨリ当分ノ間、東京大倉邸ニ。

七月廿二日

山田、体ノ具合悪シク早退ス。

前川氏、土地ノ件ニツキ来所。

事務室ノ模様替ヲナス。

七月廿三日

所長、東京府訓導・下地伝一郎氏全道、来所。

山田、扁桃腺ニ患リ欠勤ス。

七月廿四日

山田、本日午後ヨリ出勤ス。

七月廿五日

原田、日本橋事務所ニ出張ス。

所長、午後九時ノ列車ニテ大阪ニ旅行。

山田、午後、目黒邸ニ書類（中等教育談話会）ヲ届ク。

七月廿五日

小川雄逸氏、市川敬人氏外一名、来所參觀。

七月廿六日

大暴風雨アリ。植木数本倒ル、モ、建物被害ナシ。

七月廿九日

所長、大阪ヨリ帰京。広島文理科大学教授・西晋一郎氏全道、来所。

山田、日本橋事務所ニ、会計ノ要務ヲ帯ビテ出張。

七月卅日

文士・福士幸次郎氏、来所（參觀ノタメ）。

七月卅一日

原田、月末支払ノタメ日本橋ニ出張ス。

八月一日

所長、来所。

八月二日

所長、沼津ニ旅行。

八月六日

所長、来所。佐賀学院ノ井上先生並ニ目黒氏全行。

八月七日

午后一時、所長、佐賀ニ旅行。

山田、東京ニ出張。

八月八日

富嶽荘、山上ニ移転ス。

牟田、本日ヨリ荘ニ起居ス。

八月九日

藤井、本日ヨリ勤務ス。富嶽荘ニ起居。

八月十日

本日ヨリ、原田主事指導ノモトニ、夏季図書館講習会

ヲ開講ス。午前七時半ヨリ開講、正午迄講義。

午後一時ヨリ三時迄、執務。三時半ヨリ五時迄、労働。

聴講者 牟田、宮本、江下、岡崎、藤井、山田。

八月十一日

追加購入地所、地堺（マヅ）標設定、立会（原田）。

八月十二日

セレベス興業商会ヨリ、事務用机八脚納入。

八月十三日

神戸太陽帽子製造合資会社ニ対シ、壁紙ノ注文書、発

送。

研文社ヨリ、皇紀宣伝印刷物、納入。

足利工業学校教諭・斉藤幸七氏、来観。

八月十四日

大文洋行・江浦氏、友人川股氏同道、来観。

八月十五日

第三高等学校教授・佐藤秀堂氏、来観。

所長、関西旅行ヨリ帰京。

八月十六日

所長、来所。全行、原、石井（工芸学院先生）他一名。

文部省社会教育課・天野氏、来観。

八月十七日

原田、附近工場（石鹼製造）不許可願ノ件ニ付、県知

事訪問。

大綱小学校訓導・磯部氏、来所（松ノ樹ノ件ニテ）。

八月十八日

原田、前記工場ノ件ニ付キ、神奈川警察、県衛生課ニ

出頭。

牟田、史料編纂所ニ金ヲ持参ス。

日本陶器ヨリ、研究所用食器皿ヲ送り来ル。皿120個、

コーヒ―碗19組。

八月廿日

神奈川警察署長、参観。

網島郵便局へ、電話通話料納入（牟田）。

所長、来所。

八月廿五日

原田、日本橋事務所ニ出張。

ダット氏、来所。

前川氏、来所。

八月廿六日

原田、午後ヨリ日本橋事務所ニ出張。

八月廿七日

所長、四万温泉地方へ旅行。

大同電力・平井氏、参観。

八月廿九日

午後、所員一同、小田原製紙東京工場参観。

八月卅一日

原田、午後ヨリ日本橋事務所ニ出張。

九月一日

震災記念日ニツキ、工事場ハ休業ス。

本日ヨリ、Nuti Datt 氏ノ英語会話、ベンガリー語ノ

講習ヲ開始ス。

九月二日

原田、午後ヨリ帝国大学ニ出張。

九月三日

尾坂義雄氏、来所。

九月四日

牟田、本日ヨリ当分ノ間、日本橋事務所ニ出勤。

秋山、昨日ヨリ風邪ニテ欠勤。

九月四日

山田、磯部義臣氏方へ、松ノ樹代金持参。

九月八日

所長、四万ヨリ帰京。

信州善光寺别当大勸進執事・和久澤義舜氏、参観。

原田、午後ヨリ副本作製部・鈴田氏へ、見舞持参。

秋山、病気全快、本日ヨリ出勤。

九月九日

所長、午後來所。

天理図書館司書・高橋道男氏、参観。

牟田、本日ヨリ、前通り当所ニテ執務。

九月十一日

鈴木金物店ヨリ、除草器具、鍬、斧、鋸、購入。

神奈川郵便局私書函使用料金第二期分、金巻円納入。

当所除草人夫トシテ、鈴木治郎衛門ヲ雇フ。

九月十三日

所長、来所。富嶽荘ニ泊ラル。

九月十四日

所長、藤沢親雄氏、来所。夜、富嶽荘ニ於テ、藤沢氏

講演アリ。全荘ニ泊ラル。

本日ヨリ、書庫へ移転準備トシテ、書庫大掃除開始。

九月十五日

書庫掃除。午後、移転。

九月十六日

所長、柳沢省三氏全道、来所。

九月十七日

本日ヨリ、図書ノ整理ヲ始ム。

九月十八日

所長、来所。

九月廿二日

目黒講堂ニ於テ、柳沢省三氏ノ純粹体験哲学ト題スル講演アリ。

九月廿三日

前日ニ引続キ、柳沢氏講演アリ。

九月廿五日

原田、午後、日本橋ニ出張。

一誠堂ヨリ図書ヲ送り来ル。

軽井沢ヨリ椅子ヲ送り来ル。

九月廿八日

中等教育談話会（日本橋大倉洋紙店ニ於テ）。

九月廿九日

祭典費十円ヲ寄附ス（山田、前川氏宅へ持参）。

九月廿九日

農園ヨリ、植木諸道具ヲ運搬ス（所長、石川、後藤、

宮本、山田）。

九月卅日

所長、来所。

米沢市学事会・委員宮沢氏外二名、參觀。

十月二日

目黒講堂ニ於テ、宗教講話会アリ。

十月一日

神明社ノ祭典ヲ挙行。

十月三日

本日ヨリ、檜植ノ準備トシテ穴掘ヲナス。

所長、来所。

十月四日 日曜

降雨ナルモ、植木ノ都合ニヨリ、午前中穴掘。午後、

植木七百本到着。植樹。

人員 所長、原田、石川、後藤（植木屋）、須藤（シ）、

所員五名。岡崎、風邪ノタメ休養。

十月五日

午後、引続キ植樹。職人二名。

所長、風邪ニテ休養。

山田、午后、東京事務所ニ出張。

十月六日

十月七日

朝ヨリ植木ノ手伝ヲナス。

原田、市内図書館ヲ參觀。

牟田、午后、日本橋事務所ニ出張。

十月八日

午後ヨリ植木ノ手伝。

所^(長次方)、午後、来所。全九時五十五分上野駅発ニテ、

米沢へ旅行。

洪川氏、来所。

原田、日本橋事務所ニ出張。

十月九日

十月十二日

所長、米沢ヨリ帰京。

十月十三日

藤井、病氣欠勤。

夜、大豪雨アリ。

十月十四日

昨夜の大雨ニヨリ、南北両斜面ノ埋立土堤崩壊シ、山

下ノ磯部(両方)漆原ノ三氏宅ニ被害ヲ及ボシタルニ

ヨリ、山田、見舞金(¥5,000)ヲ持参、見舞ニ廻ル。

牟田、幼稚園ニ、バザー準備ノ手伝ニ行ク。

十月十五日

所長、来所。

排水用下水道開、開始。

十月十六日

原田、日本橋事務所ニ出張。

牟田、宮本、午后ヨリ幼稚園へ手伝。

十月十八日

所長、信州飯山へ講演旅行ニ出張。

十月十九日

日高一二三氏、来観。

十月廿一日

所長、信州ヨリ帰京。

本日、玄関足場ヲ取払フ。

十月廿三日

東京横浜電鉄重役・後藤慶太氏外七重役、来観。昼餐

ヲ饗応ス。

櫻井氏、来観。

十月廿五日

鈴木休ム。

十月廿六日

天岫接三氏外一名、来観。

十月廿七日

十月廿八日

富士見幼稚園児、園長其他先生ニ引率セラレ来所。附

近ニテ芋掘ヲナス。

十月廿九日

今津洪嶽氏外一名、来観。

原田、東京横浜電鉄事務所ニ出張。

十月廿九日

神奈川警察高等係・三浦清、栄武応、木村鉄太郎氏、

来観。

所長、午後來所。

十月卅日

女子大学々生七名、所長、高月、目黒氏全道、来観。

富嶽荘ニテ夕食ヲ饗ス。

十一月一日

洋紙店ノ秋季旅行（筑波山行）。江下、参加。

所長、横浜紙商組合ニテ講演。後、浜松へ講演旅行。

十一月二日

本日、松ノ移植ヲナス。杏銀樹ノ穴掘ヲ始ム。

本日ニテ草取人夫ヲ断ル（鈴木）。

目黒邸ニテ、原田老師ノ宗教講話アリ。

十一月三日

所長、明世寮生並ニ干係者十六名全道、来所。富嶽荘

ニテ、夕食ヲ饗応ス。

十一月四日

原田、午後ヨリ横浜電燈、東横電鉄ニ出張。

十一月五日

所長、高月、目黒氏、女子大生九名全道、来所。富嶽

荘ニテ、夕食ヲ饗応ス。

十一月十日

山田、家事ニテ帰郷ス。

十一月十一日

原田、増田、小幡、平林寺ノ禪堂ヲ見学ニ行ク。

十一月十二日

所長、佐賀へ旅行。

十一月十三日

大曾根町・富川國次氏、古梅木三本ヲ研究所へ寄贈サル。

十一月十四日

午後、磯部、漆原両氏、来所。原田ト土崩レニヨル損害賠償ノ件ニツキ談判ス。

先方ハ、当方ガ無断ニテ崩壊土ノ鋤取ヲ開始シタルヲ非礼ナリトシ、崩壊土ニヨル銀杏木（磯部氏所有）埋没ノ損害賠償ヲ要求シ来レリ。

前者ニ対シテハ工事上ノ関係ヨリ諒解ヲ求メ、後者ノ賠償ノ件ニツキテハ、崩壊土ヲ鋤取り、銀杏木ノ本数ヲ精査シ、適当ナル損害賠償ヲナスベシ、ト答ヘタリ。然ルニ、磯部氏ハ前要求ヲ翻シ、崩壊土ヲ其儘ニ譲リ

受クル事ヲ条件トシテ、賠償ノ要求ヲ取消セリ。

当方コレヲ容レテ、結局現状ノ儘ニテ崩壊土ヲ先方ニ与へ、以テ無賠償トス。

十一月十五日

銀杏木二千本ヲ、研究所敷地数ヶ所ニ植ウ。

十一月十九日

所長、佐賀ヨリ帰京。

十一月廿日

歡成院ヨリ買取レル土地ノ登記ヲナス。

十一月廿二日

仏教倶楽部員十二名、所長ト共ニ来所。

十一月廿三日

大阪ノ菅野氏、来所。

十一月廿四日

叡山文庫ヨリ、下記ノ書謄写承諾書来ル。

一、熾盛光法記其他

壹帖

一、於禁裏被始行如法尊勝記

壹帖

十一月廿五日

奈良市興福寺ヨリ、下記ノ書牘写承諾書來ル。

一、維摩會御探題方日記 壹冊

一、東大寺法華会注記^(方)之記 壹冊

一、東大寺法華会注記方記 壹冊

一、補任状案文 壹冊

一、御寺家方見參之記 壹冊

一、權宮^(宮)中雜々記 壹冊

一、綱所日記 壹冊

一、得度之記 壹冊

一、鎌倉夫用途納帖 壹冊

一、於一乘院殿猿樂芸能之記 壹冊

セレベス興業ヨリ、談話室ノ家具納入。

十一月廿六日

山田、帰京ス。

十一月廿七日

研文社ヨリ、感想五千部(其七)納入。

十一月廿八日

所長、今泉定介氏全道、來所。

十一月廿九日

富士見日曜学校生徒五十余名、秋季遠足ノタメ來所。

參觀者 京都高等手芸女学校・藤沢米次郎氏^(番)、葛巻常

四郎氏、伊藤慈彦氏、一噌連氏。

所長、静岡方面へ旅行。

十一月卅日

所長、帰京。

十二月一日

福澤勇造氏(北海道富士製紙)、參觀。

原田、東京横浜電鉄ニ出張。

山田、横浜事務所ニ、地租ノ件二千シ出張。

十二月二日

本日ヨリ、事務所ニ火鉢ヲ用フ。

元北海道長官・池田秀夫氏^(雄)、外務省・坪上氏外一名、

所長全道、來所。

横浜稅務署直稅課長・藤井吉隆氏外一名、馬場啓之助

氏、來所。

富嶽荘用火鉢、購入(一個、壹円四十錢)。

十二月三日

桐ヶ洗隣氏、塩谷三郎（諏訪丸船長）全道、来所。

午後、帝大史料編纂所ニ、委託図書受取ノ為メ調査ニ

出張（牟田、藤井、江下、山田）。

十二月四日

原田、日本橋事務所ニ出張。

帝大史料編纂所ニ、委託図書受取ニ出張。荷物、自動

車ニテ持チ帰ル。

午後、今成覚禪師、和賀康躬、大岡女史、来観。

十二月五日

岩波茂雄氏並ニ全書店支配人・堤氏、所長全道、来所。

十二月七日

竹中藤右工門氏、来所。松本蒸治博士、来所。

十二月八日

所長、沼津へ旅行。全日帰京。

十二月九日

所長、来所。秋山、病氣引籠。

十二月十日

原田主事、病氣欠勤。

十二月十一日

目黒ノ講堂ニ於テ、第一回所員講演会ヲ催ス。

所内ノ小住宅ノ上棟式終ル。

十二月十二日

事務所ヲ書庫内ヨリ、出来上リタル新事務室ニ移転ス。

十二月十五日

所長、来所。

忘年会ノ通知、發送。

十二月十八日

所長、高月、目黒氏、来所。

午後五時ヨリ、日本橋大倉洋紙店ニ於テ、中等教育談

話会開催。今泉定介氏ノ神道ノ立場ヨリ国体観ノ講演

アリ。所員全部、参会。

十二月廿日

忘年会ヲ催ス。参会者卅五名（研究所、編纂所内副本

作製部、史料編纂所、幼稚園、日曜学校、目黒邸、大

倉洋紙店、大文洋行）。

十二月廿二日

所長、来所。

山田、横浜市水道局ヨリ、設備費精算過剰金 $\yen 112,700$ ヲ受取り来ル。全時ニ東京横浜電鉄ニ対シ、忘年会当日ノ電車賃 $\yen 500$ ヲ支払フ。

所員講演会例会、開催。

十二月廿三日

牟田、藤原、辻両氏宅へ、歳暮謝礼持参。

十二月廿六日

午後ヨリ、富嶽荘ノ餅搗ノ為メ事務ヲ休ム。
所長、大阪ニ旅行。

十二月廿八日

本日ヨリ、事務ヲ休ム。

十二月廿九日

研究所大掃除ナス。年末年始休暇第一日。

十二月卅日

宮本、青森ニ帰郷。

十二月卅一日

所長、来所。

皇紀二五九二年（昭和七年）

一月一日

午前七時、水明社境内ニテ、遙拝式挙行。

参拝者 所長、所員一同、山本氏外目黒家族一同、

村有志前川氏外四名。

所長、本日ヨリ休中、富嶽荘ニ起居。

一月六日

本日ヨリ事務開始。原田主事ヨリ年頭ノ所感並ニ本年度ノ仕事予定、方針及是ニ対スル覚悟ノ説示アリ。即チ図書整理ニ全力ヲ傾注スルコト。

原田主事、本日ヨリ富嶽荘ニ起居。

一月七日

宮本、青森ヨリ帰所。

一月八日

神戸商大教授・水谷、横浜高商教授・森田氏外学生二名、来所参観。

原田、神奈川警察ニ出頭。料理屋等不許可ノ件ニ干関
シ署長ト懇談（神奈川警察署長地方警視中山邦明）。

一月十日

長野博士、来所。

一月十二日

所長、来所。

一月十三日

中村豊次郎氏、全夫人外二名、来館。

岡崎、病氣欠勤。

牟田、帝大史料編纂所ニ大鏡（古書）持参。

一月十四日

所長、大阪ニ旅行。

一月十五日

中村豊次郎氏、全夫人外二名、来所。

所長、帰京。来所。

一月十六日

工事現場休ミ。午後、大倉洋紙店賞与授与式ニ、所員
一同出席。

一月十七日

所長、山本信哉博士、日独文化協会主事・グンデルト
両氏全道、来所。

一月十八日

所長、沼津へ講演旅行。

一月廿日

所長、萩原東電重役、藤野正年・日本染色重役、島田
商会主全道、来所。

坂戸氏外一名、来所。

セレベス興業、中央ホールノ椅子取付ヲナス。

牟田、史料編纂所ニ金壱阡円持参。

一月廿一日

今成覚禅師、来所。

午後、浜田本悠氏、立花俊道氏、諸岡医学博士外二氏、
来所。富嶽荘ニテ晚餐、座談会ヲ催ス。

牟田、病氣臥床。

一月廿二日

南洋調査団長・近江一郎氏、来所。

松本帝国図書館長、加藤全図書館員、竹内大橋図書館

主事、来所。本所附属図書館織組ニ就テ協議会ヲ開ク。

会後、日黒雅叙園ニテ晚餐会。

出席者 前記三氏並当所長、原田主事。

東京横浜電鉄渋谷駅助役・鈴木高治郎氏外七名、参観。

一月廿四日

水谷鉄也、阿部潔両氏、参観。

所長、来所。渡辺氏備入ノ件ニ干シ全氏ト会談。

山田、横田真斉氏ノ臨時写字生ノ解職辞令ヲ史料編纂

所ニ持参。

一月廿五日

所長、来所。同伴者二人。

一月廿六日

所長、来所。

一月廿七日

東京横浜電鉄・立花氏（運輸課長）、参観。

重油コンロ、購入。

所長、風邪ヲ引カレ臥床。

一月卅日

永井清氏、参観。

一月卅一日

宮本、佐倉聯隊ニ入営ノタメ出発。

二月一日

宮本、佐倉聯隊ニ入営。山田、見送リノ為メ佐倉迄行

ク。

渡辺松治君、本日ヨリボイラー係リトシテ勤務。富嶽

荘ニ起居。

二月二日

目黒講堂ニテ、宗教講話アリ。

二月三日

所長、来所。

二月四日

植木ニ肥料ヲ施ス。石川、後藤、村ノ人夫一人、所員

一同手伝フ。

秋山、母上危篤ノ電報ニヨリ帰郷。

二月五日

岡きよ氏、参観。

二月六日

感想第一回発送、海外。

二月七日

感想第二回発送。

所長、来所。全行者、補永氏、血脇守之助氏、百代嬢

友人二人、目黒氏。

二月八日

感想第三回発送。

二月九日

感想第四回発送。

二月十日

感想第五回発送。

二月十一日

感想第六回発送。

田澤義舗氏、参観。池田清慈氏、参観。

二月十二日

感想第七回発送、其八定期発送ヲ終ル。

阿部宗孝氏、来所。

二月十三日

藤原猶雪氏、来所。カード調査ナス。

二月十四日

近藤氏、参観。

二月十五日

東北商業校長・五十嵐豊吉氏、参観。

二月十七日

福島県天澤寺和尚、中井夫人、参観。

佐倉金庫店ヨリ、金庫搬入。

本日ヨリ、正面道路工事着手。

二月十八日

日本大学教授・松原寛氏、参観。

三井銀行横浜支店・鈴木正資氏、同文書院教授・福田

勝蔵氏、東光書院・村上徳太郎氏、参観。

目黒雅叙園ニ於テ、満蒙新国家指導原理二十スル会台

ヲ催ス。

参集者 塩谷温、黒板、今泉各博士、参謀本部・大

城戸大佐、渡辺海旭、阿部宗孝ノ諸氏。

セレバス興業ヨリ、貴賓室ノ家具搬入。

二月十八日

二月廿三日

東京市外目黒町上目黒二一〇石井光雄氏ノ下記承諾書ヲ史料編纂所ニ送附ス。

二月廿四日
所長、熱海へ旅行。

一、論語抄

六冊 題巻ニ魚日津梁トアリ。永正八年鈔本ト伝フ。水野忠邦手澤本、冷泉有國書篋齋等ノ印アリ。

降雪アリ。

奈良市登大路町興福寺

二月廿五日

一、因明四相違 治承四年十一月廿日写之
信門貞筆 上下二冊

大積雪ニヨリ、屋外ノ土工事作業ヲ休ム。

二月十九日

二月廿六日

勸業銀行副総裁、元京城日報社長外二名、参観。

所員一同、人夫二人ノ同勢ニテ、書庫ノ大掃除ヲナス。

二月廿日

二月廿七日

二月廿一日

所長、沼津ニ講演旅行。

川崎仏教青年会主幹・林秀次郎氏、森金次郎氏、新田

高月氏、来所。秋山、帰荘。

小学校長・野路当作氏、日本女子大教師・高柳氏、外

出入植木職人・須藤徳次郎氏、上海出征ノ為メ訣別ニ

二名、参観。

来ル。所員一同ニテ、送別茶話会ヲナス。

牟田、祖母危篤ノ報ニヨリ帰郷（午後一時横浜発）。

二月廿八日

午後三時、逝去ノ報アリ。

原田、来所。満洲国文教座談会経過報告書ヲ作製、発

二月廿二日

送ス（参会者前記六名宛）。

宮内省ノ佐伯氏、参観。

二月廿九日

原田、支払ノ為メ日本橋事務所ニ出張。

三月一日

太尾町・前川一男氏ヨリ、椿15本、ハツ手22本、其他
卅本ノ植木寄贈ヲ受ケ、所員一同、運搬植付ヲナス。
先方ヨリ手伝人二名アリ。

三月二日

牟田、帰京。

水道タンク使用許可証、受下附。

夜、目黒講堂ニ於テ、宗教講話アリ。

所長、来所。成田昌信氏、參觀。

原田、渡辺、横浜ニ機干室諸道具購入ノタメ行ク。

三月三日

誠工舎ヨリ、家具搬入（研究室、閲覧室）。

三月四日

家具搬入（誠工舎）。

三月五日

三井銀行横浜支店長（井上玄一氏）、来所。所長面談。
誠工舎、家具搬入ヲ終ル。

午後、銀杏樹ノ移植ヲナス。

三月六日

井手氏、參觀。

所長、来所。

三月八日

浜松・宮本甚七氏、參觀。

分譲地ヨリ、松楓ノ木千本来ル（後藤、尾坂）。

三月九日

下記承諾書ヲ史料編纂所ニ送附ス。

大分県宇佐郡宇佐町 小山田菊馬

五百六十四通

東京府下代々幡代々木山谷一七五一宮地直一

（中臣義講遺稿）
中臣祓 一卷

三月十一日

青年団ノ応援ヲ得テ、裏山ヨリ新ニ購入セル松二百本
ヲ移植ス。青年団廿名。

神奈川高女専攻科生徒三十余名、參觀。

土屋氏外一名、參觀。

新食堂ヲ使用ス。

三月十二日

所員一同、松植ニ従事ス（終日）。

三月十三日

午後、松植作業。

所長、来所。面会人一人。

三月十四日

終日、松植。

所長、来所。宮本帝大助教授、来所。

三月十五日

終日、植木手伝。

三月十六日

終日、土方手伝、土運搬。

所長、来所。

三月十七日

前日全様。

所長、来所。

三月十八日

前日全様。

誠工舎、セレベスヨリ、家具搬入。

三月十九日

午前中、所内大掃除。

山田、史料編輯所ニ金壹千円持参。

午後、高月、目黒両氏、女子大生徒十名余、参観。

午后四時ヨリ、速記練習。

三月廿日

山西清吉氏、参観。

三月廿二日

終日、土方ノ手伝デ土運ビヲナス。

三月廿三日

前日全様。本日ニテ当土方手伝打切り。

三月廿四日

所長、来所。神奈川県知事・遠藤氏、内務部長・中村

氏、参観。

神道学者・原氏、参観。

三月廿五日

所長、九州二旅行。

三月廿六日

高月氏、来所。

所員一同、朝ヨリ植木作業ヲナス。

三月廿七日

大風アリ。植木被害少々、建物被害ナシ。

岡崎両親、来所參觀。

三月廿八日

土屋氏、来所。柿原愛二氏、来所。

三月廿九日

第一第二宿舍前二、松移植ヲナス。

山田、東京横浜電鉄会社ニ、敷地内電柱設置許可願ノ

交渉ニ行ク（東京電燈私設電話線）。

三月卅日

原田、病氣欠勤。

古書ノ日光消毒ヲナス。

參觀者 中山神奈川署長、高木神奈川県会議員其他二

名、大谷茂氏、高津実科高女教諭・新川正一氏。

三月卅一日

原田、病氣欠勤。荒木建築士、石川神主、来所。

古書ノ日光消毒ヲナス。

參觀者 小倉市・村上慶太郎氏。

落成式案内状發送、百廿通。

四月一日

原田、出勤。

建物ノ引渡ヲ受ク。

立会人 当方原田、建築士側荒木、小幡、石井、竹

中組。

本日ヨリ前庭芝植ヲ始ム。本日百五十坪搬入。所員一

同、之ニ従フ。

監督ニ解雇手当ヲ交附ス。

四月二日

前同様、芝植。

山田、日本橋へ支払ノタメ出張。

四月三日

原田御家族並ニ小岸尊徳氏御家族、參觀。荒木孝平氏

御家族、參觀。

宮本、佐倉聯隊ヨリ外泊許可ヲ得テ来所、一泊。

四月四日

芝植。午後ヨリ村ノ青年五名ノ応援ヲ頼ム。

四月五日

芝植。所員一同並ニ村ノ青年五名。

四月六日

芝植。庭園地凶造リ。所員一同、村ノ青年五名。

独人フロインデンベルグ氏夫妻、来所。

四月七日

建物内部掃除。

參觀者 越町憲兵・佐藤彦元氏、東横電鉄調査係長・

馬島龍亮氏、安達謙藏氏秘書・岡村喜之氏。

四月八日

午前、建物内部、午後外部、手入掃除。

所長、婦京、来所。

四月九日

落成式ヲ挙行。

招待者 建築干係者一同、太尾町大曾根町有志、研

究所内部干係者(目黒邸、幼稚園、史料編纂所)、

洋紙店、全大阪、大文洋行、小田原製紙会社、

神奈川警察署長、菊名駐在、総員百四十五名。

午前十時ヨリ、於殿堂挙行。

式次第

一、一同着席

一、修祓 起立

一、洗ヒ清ノ儀

一、招神ノ行事 起立

一、神饌ヲ供ス

一、祝詞奏上 起立

一、鳴弦ノ式ヲ行フ

一、齊主、玉串ヲ奉奠

一、所長以下、玉串ヲ奉奠

一、大倉所長挨拶

一、長野建築士挨拶

一、一同退下

四月十日

参観者 近郊村民其他二百余名。

四回ニ別ケテ案内ス。所長説明。

グンデルト氏、フロインデンベルグ氏夫妻、来所。

四月十一日

社団法人白十字会・韓睨相氏、伊藤朝氏、武藤叟氏、

参観。

四月十二日

所長、来所。富嶽荘ニ宿泊。古賀、朴（明世寮長）両

氏モ宿泊。

フロインデンベルグ氏、前川氏邸内ニ移転ス。

四月十三日

本日ヨリ、フロインデンベルグ氏、研究所ニ勤務。

カードケース十七組、着荷。

四月十四日

西晋一郎博士外一名、参観。

四月十五日

女子大学・大岡先生外九名ノ諸先生、参観。案内、高

月氏。

神奈川警察高等係・富永正巳、安藤伝次郎氏、綱島駅

長外三名、参観。

四月十六日

古屋雅敏氏、参観。

逡信局ヨリ、電気工事私設使用許可書来ル。

四月十七日

坪上貞一氏、日比野正明氏外七名、参観。

四月十八日

牟田令弟、昨日逝去セラレシニヨリ、本日午後一時半

ヨリ、歎成院ニ於テ、所員一同焼香ヲナス。

神奈川区役所税務係・三堀丑蔵氏、細野伸蔵氏、両氏

来所。

史料編纂所へ、下記辞令發送。

山田晴雄 三月卅一日附採用 給七十円

伊東多三郎 四月九日附解囑

岡田章雄 四月十四日附採用 給七十円

四月十九日

前夜ノ豪雨ニ周囲ノ土堤所々崩壊シ、午後全員ニテ修
復工事ヲナス。

参観者

四月二十日

太陽生命保険第四部長・榎本磐海氏外一名、玉川村・

大橋多吉氏外三名、参観。

四月二十一日

四月二十二日

本日ヨリ芝植ヲ始メ、所員一同芝運ビヲナス。

四月廿三日

前日ニ引続キ、芝運ビヲナス。

神奈川郵便局ニ、郵便切手葉書売所設置願提出。

四月廿四日

所長、今朝ヨリ山梨県甲府市へ講演旅行。

四月廿五日

下記承諾書ヲ、史料編纂所へ発送ス。

京都市左京区修学院 曼珠院

一、受信抄 (署名) 永正九年壬申 良鎮

一、意行抄 永正十癸酉歲 良鎮

一、聲決書 延徳三年

一、御修法度度例

(京中修法記録前題)
自貞元二年七月廿九日
至永仁二年八月十一日

坂戸智海氏外一名、来所。

四月廿六日

所長、佐賀ノ徳永氏ヲ全道、来所。

本日ニテ芝植終了。杉苗四千本、到着。

京橋商業生徒百名、全校教諭・松浦利平氏ニ引率サレ

参観。

本日ヨリ草取人夫一名雇入(鈴木)。

四月廿七日

杉苗四千本ヲ、研究所北西側斜面ニ植付ク。所員一同、

外ニ野口、石川、後藤、人夫二人、青年団五人(午后

ヨリ)。

所長、本夕ヨリ大阪方面ニ旅行。

参観者 大阪小さき幼稚園主・松本天村氏外一名、中

央商業学校教員・安藤僊瀛氏外生徒十五名。

四月廿八日

通信省ヨリ、電気設備試験ニ来ル。試験済、本日ヨリ送電。

鈴木、不幸ノタメ、本日ヨリ二、三日休ム。

四月卅日

宮本君、来所（佐倉ヨリ）。

五月一日

不二サツシユヨリ、窓ノ修理ニ来ル。

神奈川郵便局員・川口恒吉氏、調査ニ来ル。

所長、大阪ヨリ帰京。

五月二日

参観者 鶴見高女教諭・伊藤郷一氏、陸軍歩兵中佐・

山村梓、元中央融和事業協会参事・松本幸氏。

江下、父君ノ急病ニヨリ帰郷（午后八時廿五分）。

目黒講堂ニ於テ、原田老師ノ御講話アリ。

五月三日

牟田、調布高等女学校・細川先生宅へ寄贈図書受取ニ

行ク。

五月四日

陸軍少将・出口永吉氏、横浜浅野中学校教官・岡田與作氏外生徒百五十名、参観。

グンデルト、藤澤親雄氏、来所。

五月五日

神宮講常務理事・丸尾重吉氏、太尾町大曾根町民約二百名、参観。菓子包ヲ施与ス。

岡崎、徴兵検査ノタメ、午後帰宅。

五月七日

午後二時、建築学会々員約百名、参観。大倉所長講演ノ後、随意所内見学。

五月八日

午前十一時、井上哲次郎、補永茂助、宮地直一、佐伯博士及原正男氏、来所。昼食ヲ、所長、原田共ニス。

大岡蔦枝女子、台所設計ノタメ来所。

佐藤峯松氏、参観。

五月九日

参観者 神奈川県会議員・飯田助夫氏五名。

午後五時半ヨリ、東京会館ニ於テ、神道二千スル会合

ヲ催ス。

五月十五日

出席者 井上哲次郎、補永茂助、今泉定介、宮地直

修養団京橋日本橋支部員其他二百七十名、来所。殿堂

一、田中義龍、佐伯義矩、原正男、山本信哉、
諸氏。当方ヨリ、所長、原田。

ニテ所長ノ講演後、館内參觀、正午退出（午前九時半
ヨリ）。
仏教倶楽員、正午ヨリ參觀。昼食ヲ共ニス。

五月十日

所長、講演旅行。

常盤敏太氏夫妻及木村義隆氏外一名、来所。

五月十一日

本日ヨリ、佐山、出勤。

參觀者 日華学会・高橋君平氏、神奈川・間宮一郎氏、

五月十六日

東京・原田謹次郎氏。

五月十七日

五月十二日

三井物産ヨリ、カードケースノ引渡ヲ受ク。

降雨ノタメ、草取夫休ミ。

後藤、石川両氏、来所。植木ノ手入ヲナス。

五月十三日

五月十八日

山田、前川、漆原両氏ト、漆原氏ヨリ購入ノ土地登記

留岡清男氏、參觀。

ノタメ、神奈川登記所ニ出張。

五月十九日

五月十四日

暖房ノ試験ヲナスモ、成績不良ニテ未了。

労働日。所員一同、庭造リヲナス。

東横ヨリ、砂利自動車一台、入荷。

漆原氏土地代金及雜費壱千百十九円七十五錢也ヲ、前

日本橋事務所、全部引揚ゲ。

川氏ニ渡ス。

五月廿日

宮城県古川中学校校長・畑平次氏、参観。

五月廿一日

所員労働。午後、支那学生招待会ノ準備。

参観者 福澤三八氏、小川雄逸氏外一名。

五月廿二日

支那学生招待会。午前十時ヨリ所内見学、正午ヨリ午

餐会、午後二時散会。

参会者 日華学会、女子寄宿舎其他四十九名、神宮家

庭寮・森本寮主以下十四名。

一般参観者 帝国図書館司書官・林繁三、台湾総督府

図書館長・山中樵氏外三名。

五月廿四日

立正大学教授・浜田本悠氏外三名、来所。

五月廿五日

浅野セメントヨリ、セメント卅四袋送り来ル。

五月廿六日

工学博士・佐伯勝太郎氏外学生三名、参観。

修養団・石野氏、来所。記念樹寄贈申入レラル。

石川宮司へ、落成式神勸謝礼¥30,000、神饌費其他

¥7,000支払フ。

五月廿七日

修養団（東京京橋日本橋支部）ヨリ寄贈ノ檜十本、東

館東側ニ植込ヲ終ル。

松屋ヨリ、事務用諸道具其他、購入。

五月廿八日

参観者 碑衾村役場・村井鑠造氏、谷澤啓太郎氏、渡

辺八五男氏外見学団数名、望月軍四郎氏。

暖房試運転ヲナス。立会、荒木、増田、原田、渡辺、

大阪暖房ヨリ数名。

五月廿九日

参観者 東京文理大学助教授・内野台嶺氏、全大学生

徒七名、工学博士・田中龍夫氏、深町氏、幼稚

園・岡、平井先生外数名。

感想ヲ、日本橋事務所ヨリ持チ来ル。

五月卅日

浅野綜合中学教諭・濱野駿吉氏外一名、子安町・中村

清一氏、參觀。日高氏、坂戸氏、来所。

所長、沼津へ講演旅行、一泊。

五月卅一日

中等教育談話会。阿部宗孝氏、公民教育視察ノタメ欧

州二出張セラル、ニツキ送別。おでん会ヲ研究所ニ於

テ開催。参会者十二名。

新羽村青年団有志十数名、參觀。

六月一日

大雨アリ。

六月二日

目黒講堂ニ於テ、原田老師ノ宗教講話会アリ。所員、

出席。

六月三日

専売局（煙草）調査ニ来ル。

家屋申告書ヲ提出ス（神奈川区役所）。

六月四日

暖房ノ検査ニ来ル。荒木、増田、小幡、大阪暖房ヨリ

数名。

東京電燈へ、工事金支払。

夜二入り、雨強シ。土堤崩壊（一部）。

六月六日

出口永吉氏、高橋鏡子氏、參觀。

海軍大佐・武富邦茂氏、海軍省囑託・大宅由耿氏、参

觀。

六月七日

所長、来所。中村豊次郎氏、名古屋信道会主事・福田

氏全道、參觀。

其他、日本少年指導会参事・吉田連氏外一名、參觀。

日本少年指導会維持会員ヲ承諾。会費六円也納入。

六月八日

電気試験ニ来ル。増田建築士、島田商会職人。

六月九日

早稲田大学工科学学生数名、暖房試験ニ来ル。

參觀者 井手諦一郎氏外早大学生八名、横浜高商講

師・永積安明氏。

六月十日

史料編纂所へ、京都市曼珠院ヨリノ下記承諾書ヲ送ル。

午後、労働。

一、天台座主次第 一冊

六月十六日

一、天台座主記 一冊

所長、上海ノ感想愛読者、馬場董之氏案内、来所。

一、天台座主記 一冊

六月十七日

六月十一日

東諦氏、本日ヨリ富嶽荘ニ宿泊シ、研究所ノ労働ニ従

満洲国総理秘書・太田氏、岡野氏、光明会主幹・日高

事ス。

丙子郎氏、参観。

本日ヨリ、座禅堂使用。

終日、土掘労働。奥野氏、来所。手伝ハル。

六月十八日

六月十二日

労働。日本美術院審査員・郷倉千鞆氏、小川氏、参観。

大倉洋紙店員家族一同招待会。午後二時ヨリ。

六月十九日

所長ノ案内ニテ所内参観後、洋紙店ヨリ持参ノおでん

富士見日曜学校、二子玉川ニ遠足。

会ヲ開キ、午後五時散会。参会者約百廿名。

参観者 上方氏外二名。

六月十三日

六月廿日

阿部六中校長渡欧ノタメ、所長、原田、横浜迄見送ル。

宿舍用蚊帖八ツ、購入。

ダット氏、来所。

坂戸氏、来所。

六月十四日

六月廿一日

目黒邸ノ目黒氏ノ父君弟氏、参観。

大阪ノ洋紙店・森氏、隣保館・片岡氏、来所。

六月十五日

所長、在泊。

坂戸氏、来所。

六月廿三日

午後五時ヨリ、研究所ヨリ京都ニ留学セラル、奥野源太郎氏ノ送別談話会ヲ開ク。

参会者 所長、原氏、藤川氏、東、牟田、藤井、江下、岡崎、山田。原田主事ハ病人ノタメ欠席。

帝大・石井学生主事ノ紹介ニヨリ、夏季臨時雇入ノ件ニ干シ、帝大生・藤川氏、来所。所長面会。

六月廿四日

所長、小田原へ旅行。

六月廿五日

所員、労働。

六月廿六日

富士見幼稚園同窓会ヲ催シ、運動会ヲナス。午後三時

散会。

グンデルト氏、来所。

六月廿八日

本日ヨリ受付簿備付ニヨリ、来観者記入ヲ止ム。

六月卅日

母ノ会々員廿名余、參觀。

七月一日

日本女子大学先生（第一回卒業生）十人余、參觀。

本日ヨリ、夏季中臨時図書整理係トシテ、帝大学生・経田、平井、福地ノ三氏執務ム。富嶽荘ニ起居。

七月二日

午後七時ヨリ、原田祖岳氏ノ宗教講話ヲ、当所殿堂ニ於テ催ス。参会五十名余。

七月四日

メーソン氏招待案内状、発送。

七月五日

神奈川県庁農事課検査員七名、日本女子大学々生廿数名、參觀。

江下君、当所ヲ辞職シ渡満スルタメ、研究所員一同、送別会ヲ催ス。

七月六日

所長、不動産税ノ件ニ干シ、神奈川県庁ニ知事ヲ訪問

ス。

七月七日

土方土堤工事、終了。

七月八日

土方テニスコート地ナラシニ着手。

江下君、午後一時出発（横浜駅）。

七月九日

桜風会横浜支部員十名、參觀（午後二時）。

所員一同、労働（コート作り）。

七月十一日

メーソン氏招待会（午後五時ヨリ学士会館ニ於テ）。

参会者卅一名。

七月十三日

坂戸智海氏、寄贈ノ半鐘ヲ持チ来ル。

正門標札、出来上ル。

七月十四日

本日ヨリ当分、第三高等学校教授・佐藤秀堂氏、富嶽

荘ニ止宿。

七月十五日

原田主事、本夕ヨリ暑休帰郷。

七月十六日

所員全部、労働（コート網ハリ）。午後ヨリ降雨烈シ

キタメ、室内ニ引上グ。

七月十七日

神道学者会ヲ、大倉洋紙店ニ於テ開催。

参会者 今泉定助、原正男、補永茂助、田中義能、

山本信哉、宮地直一。

当方 所長、藤井。

七月十八日

満洲開教監督・宮谷法含氏外二名、參觀。

東北帝大・京都帝大・大阪工業大学各生徒主事、佐藤

三高生徒主事全道、參觀。

七月十九日

文部省図書局・加藤氏、參觀。

山田、中目黒小学校へ50枚、正則中学校へ50枚、各電

車割引切符持參。

七月廿日

佐藤氏、退京。

七月廿一日

補永茂助氏、原正男氏、藤原猶雪氏、来所。

中目黒小学校先生四十六名、参観。

山田、市川真間・桐ヶ谷氏へ香典持参。

七月廿二日

正則中学校先生廿名余、品川高女先生十五名余、参観。

中村豊次郎氏、平岡氏、伊形氏、参観。

七月廿三日

所長、本日ヨリ関西方面ニ講演旅行(名古屋信道会館)。

山田、桐ヶ谷家告別式ニ参列。

七月廿五日

原田主事、出勤。

藤井、本日ヨリ暑休。

前川、欠勤。

七月廿六日

補永、原両氏、出勤。

前川、欠勤。

七月廿七日

前川、引続一週間暑休。

七月廿八日

前川清一郎氏、松ノ件ニツキ来所。

七月廿九日

七月卅日

所内大掃除ヲナス。

七月卅一日

藤井、出勤。

八月一日

島貿易、ゴムタイヤル修繕ニ来ル。

八月二日

西田幾多郎博士、来所参観。

目黒、井上、高槻東一、三氏来所。

八月三日

料理場ヲ、富嶽荘ヨリ本館ニ移転ス。本日ヨリ、食事ハ全部、本館食堂ニ於テナス。

八月四日

東諦氏、本日ヨリ山形地方ニ労働旅行。

グンデルト氏、来所。原氏、来所。

八月五日

本日ヨリ、佐賀学院ノ井上先生、料理指導ニ、毎日午前中来所。

八月六日

郵便私設函、使用開始。神奈川局内ノ私書函、使用解除。

感想合本出来、一千部受入。発送開始。

八月七日

牟田、本日ヨリ暑休ニテ鎌倉ニ行ク。

八月八日

感想二千部受入。二千部、富山市へ東京ヨリ直接発送。

八月九日

所員研究会（午後七時ヨリ）。

八月十日

岡崎、暑休。

八月十一日

所長、パス紛失ノ件届。

八月十二日

原、補永氏、来所。執務。

タイル職人二名来ル。

八月十三日

府立第一商業学生十七名、山本・（空白）少佐両教諭ニ引

率セラレ来所。所内参観。所長訓話ノ後、昼食ヲ共ニス。

研究所研究発表会ハ、午前八時ヨリ、佐藤三高教授ノ

対満政策ニ対スル批判。

八月十四日（日）

大倉所長、来所。来訪者。

八月十五日（月）

大倉所長、原氏、来所。

渡辺、山田両君、本日ヨリ休暇ヲトル。

所長、昼時説話「人間ハ本願ノ外ニ別願ヲ有スベシ、

自己ノミノ救済ヲ求ムル聲聞縁覚ノ徒タル勿レ」

提案 神道講習会開催ノ件、休暇後毎土曜ヨリ日曜ニカケテ挙行シテハ如何

職人 大工二人、月町家ノ床張り。

八月十六日(火)

山田君、母上危篤ニツキ、昨夜郷里山口ニ帰省。

昼食時、大倉所長、来所。

昼時話題「地獄極楽ノ問題」

砂、到着。

職人 大工二人。

八月十七日(水)

砂搬入ノタメ、一同作務。午後二時頃、終了。

職人 大工二人。

八月十八日(木)

所長、三輪大佐、来所。

昼食時話題「小人ノ善ノ觀念ハ却ッテ大局ヲ誤ル事アリ」

リ

職人 大工二人、草取一人。

本日ヨリ、リノリュウム修繕ヲ始ム。職人三人。

八月十九日(金)

所長、原氏、来所。

原田、朝、史料へ小切手持参ス。

昼食時、原氏ノ研究態度ニツキテノ発表アリ。

所長、研究所ノ学風ヲシテ他ノ学風ト異ラシメタキ希

望。

職人 大工二人、草取一人。

八月廿日(土)

2. 庭球コート草取掃除(所長以下)。

1. 佐藤氏満蒙問題原稿ニ対シ討議ヲ続行シ、本日ヲ

以テ終了ス。

史料ノ古文書副本控帳ヲ、山本信哉博士ニ送ル。

午後、土工。

来訪者 坪上氏外三名。

職人 大工二人、草取二人。

八月廿一日(日)

午前十時ヨリ、庭球コート開キ。

所長、菅野大阪支店長、洋紙店員十三名、高月、目黒、

百代さん、三分一、宮本等、来所。

午後四時頃、終了。

八月廿二日（月）

リノリウム工事、終了。

八月廿三日（火）

1. 館内大掃除。午後五時半迄カ、ル。

2. 所長、原、補永、今成ノ諸氏、来訪。

3. 食事小談—今成氏ノ満洲ニ於ケル仏教徒雜感。

八月廿四日（水）

1. 島貿易・田畑外一名、タイル仕上ヲ見ニ来ル。

2. 參觀者二名。

3. 職人 大工二人、草取一人。

八月廿五日（木）

1. 午前、大倉所長、来所。日給授与。

2. 一同、図書整理。佐山、壁組。渡辺、播種。午後、

横浜へ雑用。

3. 職人 大工二人、草取一人。

八月廿六日（金） 雨

1. 所長、午前来所。原氏、終日来所。洋紙店・谷本

氏、客ヲ案内シテ參觀。

2. 原田主事、午後ヨリ日比谷図書館其他、參觀。佐

山、午後病氣欠勤。其他平日通り。山田、本日ヨ

リ出勤。

3. 職人 大工一人、草取一人（午後三時引揚ゲ）、

大阪暖房一人、島貿易一人。

八月廿七日（土）曇

1. 所長、来所。午前八時ヨリ九時迄、研究発表会（藤

井、法華経ニ就テ）。横浜ノ藤永氏外家族一同、

參觀。中野等霖氏、来所。所長面談。

2. 一同労働。神社下ノ地ナラシ。午後六時ヨリ、平

井、経田、福地兄ノ送別会。

3. 職人 草取一人。

4. 食事話題（所長）孔子ノ君子ト小人。

八月廿八日（日）小雨

1. 所長、来所。原田主事、来所。棚橋氏外一名、日

本皇政会・小谷文濟氏、參觀。

2. 経田、福地両君、下山。

3. 職人 草取一名。

八月廿九日(月)

1. 所長、前晚ヨリ宿泊。草取。山田、荒、小供三人掃除。他ハ平日通り。

2. 明世察・林氏、所長用事ニテ来所。平井君、下山。

3. 職人 大工、本日ヨリ出勤セズ。草取夫、休ミ。

4. 食事話題、事時問題ヲ捕ヘテ金ノ価値ヲ論ス。

八月卅日(火)

1. 所長、来所。牟田、岡崎、三井物産ニタイプライ

ター見学、午後三時ヨリ。

2. 国民精神文化研究所員・紀平正美博士外四氏、参

観。綱島小学校訓導・長谷氏、来所。小学生臨時

雇・斉藤、富岡、磯貝三君、今日ニテ雇ヲ解ク。

3. 職人 ナシ。

八月卅一日(水)

1. 所長、来所、午前中。原田、午後農園へ。山田、

日本橋へ出張。

2. 塩入氏、奥野氏、原氏、来所。

3. 職人 草取夫一名。

九月一日(木) 晴

1. 所長、来所、朝ヨリ大震災追悼。労働ノタメ芝植。所員一同、石川、芝植人3。渡辺、指ヲ負傷セシ

タメ欠勤。

2. 原氏、招電ニヨリ来所。長谷川よし子女史、参観。

3. 職人 草取夫一人。

本日ヨリ小学生三名、午後ヨリ来所。従来ノ仕事

ヲ継続ス。

九月二日(金) 晴

1. 所長、来所。渡辺、欠勤。

2. 四書学院・星野鉄男氏(夫)、所長訪問。目黒蒲田電鉄

社員・落合庄太郎氏外二名、参観。

3. 職人 草取夫一名。

九月三日(土) 晴

1. 所長、来所。今早朝ヨリ、当三分芝ニ撒取ヲナス。

所員労働。神社下ノ地ナラシ。平井君、救援。

2. 藤原氏、新田氏、来所。

3. 職人 草取夫一名。

九月五日（月）晴

1. 所長、来所。食時ノ訓話「孔子、蟬取男二道ヲ聞ク」。

2. 渡辺、佐山、荒、小住宅ノ作業。山田、日本橋へ

感想持参。

3. 職人 草取夫一名。

九月六日（火）曇

1. 渡辺、佐山、荒、小住宅ノ作業。山田、日本橋へ出張。

2. 職人 草取夫一名。

九月七日（水）雨

1. 所長、来所（午前中）。牟田、日本橋へ出張。

2. 前川氏、登記ノ件ニテ来所。

3. 職人 草取夫一名。

九月八日（木）曇

1. 所長、来所。午後、西田博士ヲ訪問。

2. 参観者五名。

3. 職人 ナシ。

九月九日（金）

1. 異状ナシ（平常勤務）。

2. 夜、豪雨ノタメ、渡辺、佐山、来所。協力警戒。

3. 山田、前川、竹生氏ト共ニ、神奈川税務所ニ至リ、土地登記手續了。

九月十日（土）

1. 所長、午後來所。

2. 昨夜ノ雨ニ土堤ニケ所崩壊セルニヨリ、応急築溝作業ヲナシ、後、水道タンクノ大掃除ヲナス。

九月十一日（日）

参観者 三井銀行・杉山氏、海軍経理学校生徒・前田氏、帝大生・松隈氏。

終日大雨ニテ、神社下ノコンクリート崖、崩落。

九月十二日（月）

所長、午後來所。原氏、来所。

職人 草取夫一名。

前川氏ニ対シ、竹生氏ノ土地代金其他、參百參拾參円
八拾八錢也ヲ支払フ。

九月十三日(火)

1. 所長、来所。前川氏、登記用書類持參(並受取)。
2. 職人 草取夫一名。

九月十四日(水)

1. 所長、来所。神道學者会合通知、發送。
2. 午後三時ヨリ芝刈リ。
3. 職人、土地ノ土方二人(神社下ノ崖修理)、草取一名。

九月十五日(木)

1. 所長、来所。横田氏、山野氏、長谷川氏、来所。
神社手水鉢、唐猛子、燈籠寄贈ノタメ石工全道、
下見分。奥野氏、来所。
2. 山田、午後ヨリ、駒岡ノお穴様、鶴見ノ三ツ池方
面ニ実地踏査ヲナス。
3. 職人 土地ノ土方二人(崖修理)、草取夫一名。

4. フロイデンベルグ氏、軽井沢ヨリ帰ル。

九月十六日(金)

1. 所長、来所。山田、田園調布ヘフロイデンベルグ
ノ家ヲ探シニ行ク。

2. 終日、雨。職人ナシ。

九月十七日(土)

1. 所長、午後來所。原田、坂戸氏宅ニテ奥野氏ト相
談アリ、午前中出所セズ。藤原氏、来所。

2. 神道集會ノ印刷物、作製。

九月十八日(日)

1. 參觀者、十数名アリ。

2. 神道學者会合、於東京會館。

九月十九日(月)

1. 所長、来所。芝刈ヲナス。
2. 荒、佐山、階段ノコンクリー打ヲナス。
3. 參觀者、女四人。
4. 職人 人夫二人、草取夫一名。

九月廿日(火)

1. 所長、来所。坂戸、原、奥野三氏、来所。午後迄、

会議（神道講習会ニ就テ）。所長話、理論ト實際。

2. フロイデンベルグノ借家決定（篠原町富塚二、一

〇九）。敷金（二ヶ月分）五拾六円也支払、家主

神奈川区反町一一西尾重吉。

3. 名古屋市・伊藤氏夫妻、參觀。

4. 本日よりニテ、小学生解雇。

5. 職人 人夫二人、草取夫一名。

九月廿一日（水）

1. 所長、来所。原氏、出所。

參觀者。

2. 職人 人夫二人、草取夫一名。

3. 東洋タイプライターへ、タイプライター註文書発

送。

九月廿二日（木）雨

1. 所長、来所。

2. 職人ナシ。

九月廿三日 雨

秋季皇靈祭。

九月廿四日 土

午前九時ヨリ、所員ノ臨時協議会ヲ開ク。所長、坂戸、

原、奥野氏、原田、外所員一同。午後三時半、閉会。

山田、前川氏全道ニテ、櫛寄贈礼ノタメ手拭地一反及

感謝状持參。左記ノ宅ヲ訪問ス。

前川清一郎（榧一本）、前川一男（榧二本）、磯部辰

三（櫛四本）、畑野金作（櫛四本）、畑野伊三郎（櫛

六本）、西山徳次郎（櫛三本）。

九月廿五日 日

午前十一時、日本貿易協会徒歩会員・松本丞治氏外九

名、參觀。

加賀町警察署長・田上辰雄氏外三名、參觀。

坂本金弥氏、来所。徒歩会員案内ノタメ。

熊野神社宮司・石川氏、来所。当所ヨリ鶴見へ案内、

山田、全行。

九月廿六日 月

所長、坂戸、奥野、原、各氏来所。

神奈川警察署・降旗氏外一名、參觀。

九月廿七日 火

所長、来所。

九月廿八日 水

所長、来所。參觀者二名。

太神宮ニ燈籠据付ニ関シ、石工、実地踏査ニ来ル。

九月廿九日

所長、来所。

原、奥野、坂戸、富田氏、来所。奥野氏ハ本日ヨリ当

分富嶽莊ニ起居。

神奈川県稅務出張所長・町田氏外三名、參觀。

九月卅日 金 雨

所長、来所。

正面正門通り両側ニ、植木植込ヲナス。小灌木1300本余

リ。石川、後藤、外所員一同。

太神宮へ寄贈サレタ燈籠、狗犬、手洗、搬入据付（横

田、長谷川、山野、藤野、山本、阿部、加藤、諸氏寄

贈）。

十月一日 土 晴

所長、来所。

神明社燈籠狗犬手洗奉納祭、挙行（午前十時）。

参列者 寄贈者側、横田、山野、阿部、長谷川、藤野、

加藤、上方。氏子側、前川、磯部、外三名。研究

所、所長以下所員一同。

式後、一同昼食ヲ共ニナス。

十月二日 日曜 晴

所長、来所。

參觀者 坪上氏、真崎海軍大佐、相川警察部長、佐野

氏其他。

夜、目黒講堂ニテ、宗教講話会アリ。所員、出席。

十月三日 月 晴後雨

所長、来所。坂戸氏、来所。

原田、奥野両氏、農園へ出張。

十月四日 火

所長、前晚ヨリ宿泊。

神道講習会印刷物ヲ講師宛發送。

十月五日 水 晴

所長、文部大臣其他訪問（神道講習会ノ件ニツキ）。

山田、目黒邸へ絵葉書（落成式）卅部ヲ届ク。

午後六時ヨリ、研究所特別機干幹部集会（所長、原田、

奥野、坂戸（欠）、浜田）。

十月六日 木 晴

所長、午後来所。原氏、来所。

神道講習会講師会合日時七日ヲ八日ニ変更通知、發送。

參觀者 竹田為五郎氏、麻布連隊区司令部・末次氏。

安藤豊作氏、山本麟太郎氏、来所。

大曾根村祭礼ニ金五円也寄附ス。

十月七日 金 晴

所長、来所。

參觀者 三井物産・丹羽氏、相良氏、京都ノ石原氏。

山本麟太郎氏、来所。

中央教化団体聯合会へ、当方経営ノ諸事業ノ報告ヲナ

ス。全会ノ杳水氏、受取ニ来リ持帰ル。

所長、止宿。

神道臨時講習会ノ件、鳩山文相ヨリ閣議ニ提出ノ新聞

記事アリ（本日夕刊）。

十月八日 土

所長、来所。坂戸、藤原、両氏来所。

參觀者 府立七中・内藤教諭外十三名。

山本麟太郎氏、来所。

午後五時ヨリ、東京会馆ニ於テ、神道講習会ノ講師ノ

会合ヲ催ス。

十月九日 日

所長、来所（午後）。

富士見農園ノ掃除ニ、所員全部出掛ケル。山田、荒、

居残り。

原田、講習会ノ件ニ干シ講師宅ヲ歴訪ス。

參觀者 丸ノ内工業倶楽部・福島氏外数名。

十月十日 月 晴

日本橋ヨリ、臨時神道講習会通知状、發送。

来館者 勅諭普及会員・末次養壽氏。

十月十一日 火 晴

所長、午後来所、止宿。坂戸氏、来所。

十月十二日 水 晴

原氏、来所。

所長、府庁、拓務省、内閣歴訪。神道講習会ノ件二千シ。

原田、午後ヨリ東京へ出張。

十月十三日 木 晴

所長、止宿。坂戸氏、来所。

神道講習会ノ件二千シ、所長、奥野、坂戸、原田、会合。

山田、陸軍大臣官房へ、神道講習会印刷物十部持参。

十月十四日 金

所長、来所。原氏、来所。

所長、神奈川郵便局ニ於テ講演。

本日ヨリ、カーテン取付、各室。

十月十五日 土 雨

所長、来所。

国旗二旒其他附属品、購入。

台所用具、新夕購入ノモノ、目黒ヨリ搬入。

十月十六日 日 雨

所長、来所、止宿。

參觀者 鎌田氏外数名。

十月十七日 月 神嘗祭 晴

午前九時、洋紙店大阪支店員四十五名、来所。所内參觀。所長講話。昼食後、午后一時退出。

參觀者 十数名。

佐賀ヨリ野口校長来所、宿泊。

十月十八日 火 曇

所長、来所。午前中、神奈川県庁、横浜市役所へ、神道講習会ノ件二千シ出向。

午後、所長並ニ所員一同、目黒邸ヨリ四人（谷本氏夫人共）、幼稚園三名、坂戸氏外一名、佐賀・野口氏、

横須賀二軍艦見学ニ行ク（軍艦山城）。

野口校長、止宿。

所長、在泊。夕食後、学院ノコト二千シ談合ス。

十月十九日 水 晴

午前十時、土屋女塾々生十七名、參觀。其他数名、参

観。野口校長、退京（目黒邸ニ於テ学院相談会后）。

所長、夜、日本医師会館ニ於テ講演。

山田、日本橋へ絵葉書五十組持参（大阪洋紙店へ）。

奥野氏、不幸アリテ帰宅。

原氏、来所。

額全部搬入ヲ終ル。内金百五拾円ヲ支払フ。

本日ヨリ、草取夫中止。

十月廿日 木 晴

所長、午後来所。坂戸氏、午前中来所。

午後三時、府立一商生徒廿数名、山本教諭ニ引率サレ

来所、参観。夕食ヲ共ニス。

十月廿一日 金 雨

共立婦人会員十数名参観、所長訓話。

所長、今夕ヨリ関西ニ旅行。

原氏、来所。

十月廿二日 土

牟田、東京へ出張。山田、横浜へ材木仕入ノ為出張。

本日ヨリ、大工二人雇入。

夕方、奥野氏、帰所。

補永博士逝去セラル。山田、見舞ニ参上。

十月廿三日 日

殿堂へ厨子搬入。

近村ノ少壮宗教家人、会合（午後一時ヨリ）。

大工二人。

講習会申込催促状、發送。

十月廿四日 月

故補永博士葬儀、原田参列（香典三十円持参）。

山田、神奈川県庁内稅務出張所ニ、免稅ノ件二十シ出

張。

参観者 小机小学校職員生徒百余名。

大工三人、土方一人。

十月廿五日 火

所長、関西ヨリ帰京、来所。

参観者 貴族院議員・有吉忠一氏、平沼亮三氏外三名。

坂戸氏、原氏、来所。

大工三人、土方一人。

十月廿六日 水

所長、来所。原氏、来所。

県稅務課へ、家屋稅納入。

大工二人、土方一人。

十月廿七日 木

神道講習會個人干係通知書、發送。

渡辺、欠勤。

十月卅日 日

府立第一商業學校職員卅名、參觀。所長、案内、講話ス。

十月卅一日 月

中鉢氏ヨリ、芝八十坪ノ寄贈ヲ受ケ、所員一同ニテ植

付ヲ終ル。

十一月一日 火

神道講習會準備ノタメ夜業ヲナス。

十一月二日 水

全上。

十一月三日 木 晴 明治節

臨時神道講習會。午前九時ヨリ開修式。

山本、河野氏、講演。午後三時、終了。

聽講者。

十一月四日 金 雨

〃。午前九時、開講。田中、星野氏、講演。

十一月五日 土 雲

午前八時半、開講。井上、田中氏、講演。

十一月六日 日 晴

午前九時、開講。山本、植木氏、講演。

十一月七日 月 晴

午前九時、開講。宮地、星野氏、講演。

十一月八日 火 晴

午前九時、開講。星野、宮地、河野氏、講演。

十一月九日 水 晴

午前八時半、開講。黑板、今泉氏、講演。午後二時、

終了。閉會式後、記念撮影、茶話會。午後四時、散會。

十一月十日 木

講習會講師宅へ謝禮持參、御禮ニ參上。原田（井上、

宮地、山本、田中、今泉)、山田(河野、植木、黑板、星野)。

参観者 神宮皇學館講師・三東義邦氏。

奥野氏、原氏、帰宅。

十一月十一日 金

原田、山本氏宅へ謝礼ニ参上。

十一月十二日 土

所長、京都大阪へ講演旅行。

府立高等学校教授・岡野他家夫氏外二名、参観。

十一月十三日 日

附近日曜学校生徒、参観。

奥野氏、来所、帰宅。

十一月十四日 月 夜暴風雨

午後五時頃ヨリ風雨強マリ、夜二入りテ益々猛威ヲ振

フ。損害、先生宅屋根瓦破壊、富嶽荘屋根塗板破壊、

本館書庫屋根少破、植木多数倒壊、土堤一部崩壊、物

置小屋破損。

十一月十五日 火 晴

植木手入、屋内整理。所員全員ト人夫五人。

石川神主、宅ヨリ風害見舞ニ来所。

十一月十六日 水 曇

所長、帰京、来所。奥野氏、来所。

植木手入、人夫六人。

荒木事務所・増田氏、竹中ノ梅木氏、風害見舞ニ来所。

講習会員ニ写真発送。

十一月十七日 木

富嶽荘、第二宿舍ノ畳乾シ。所員一同。

松ノ樹手入。人夫二人、石川氏。

鮮人土方三人、土手直シ。

十一月十八日 金 曇

竹中工務店ヨリ大工来リ、富嶽荘ノ屋根修繕。

鮮人土方三人、人夫一。

十一月十九日 土 晴

所長、来所。

原、藤原、奥野氏、来所。奥野氏、止宿。

竹中工務店職人二人。

十一月廿一日 日 晴

所長、来所。

天台宗教学部長・塩入氏、坂戸氏全道、来所。

参観者 府立第一商業・山本氏外職員生徒六十余名、

東京府齒科医師会・小林忠三郎氏外十六人。

十一月廿一日 月 晴

所長、午後来所。

佐賀県女子青年指導講習会員数名、来所参観。

三隅、小林氏、参観。

十一月廿二日 火 晴

所長、来所。参観者二人全道。

神宮奉斎会・今泉定助氏ヨリ、故実叢書四十冊寄贈ヲ

受ク。原田、受取ニ出張。

坂戸氏へ鐘、洋紙店へ椅子50脚返却。

十一月廿三日 水 晴 新嘗祭

所長、来所。

所員一同、講習会慰勞ノ意味デ、多摩御陵参拜。高尾

山登山、決行。

十一月廿四日 木 曇

下記承諾書、史料編纂所ニ送附。

滋賀県東浅井郡大郷村大字南浜 西川太治郎

一、喪祭私略 西川俛斎自著自筆稿本 一冊

京都市東山区本町東福寺塔頭 岡根守堅

一、諸仏事三周集、養浩集 一冊

原田、目黒邸ニ於テ、坂戸氏ト学院視察ノ件ニツキ打

合セ。

十一月廿五日 金 晴

原、奥野、両氏来所。

十一月廿六日 土 曇 夕方ヨリ雨

所長、来所。

所員一同、労働(松ノ移植)。石川氏、来援。

煙草専売局ヨリ、煙草特定小売人指定書ノ交附ヲ受ク。

参観者

十一月廿七日 日 曇

所長、来所。

参観者 川崎中学校長・林氏、参観。

医学博士・平石氏紹介ニテ、瀬良是助氏、田村氏、来所。修道場ニテ終日坐ラル。

原田、坂戸両氏、佐賀学院視察ノタメ出発。

十一月廿八日 月

所長、来所。原、奥野、両氏出勤。

參觀者 馬場氏、山下汽船・溝渕氏。

ピッチストープ試用。

専売局ヨリ、煙草ヲ仕入ル(¥140.60)。

十一月廿九日 火

下記承諾書、史料編纂所へ廻戻。

渋谷区代々木山谷町二〇八 侯爵山内豊景

一、天学問批 後付共 谷泰山編自筆 廿三冊

山形市地藏町一〇〇 野村岳陽

一、留守氏旧記

一冊

所長、来所。

十一月卅日 水 晴

所長、来所。高月様、来所。宮本君歓迎ノタメ。

宮本君退堂、帰荘。山田、佐倉ニ出迎フ。

十二月一日 木 晴

所長、来所。

參觀者 横浜大谷派本願寺・狩野氏。

十二月二日 金

所長、来所。

県立川崎中学校職員生徒百卅名、来所參觀。所長、講演。

演。

小宮総太郎氏外三名、參觀。

夜、目黒講堂ニ於テ、原田老師ノ宗教会アリ。所員一同出席。

同出席。

十二月三日 土

午前中、感想ノ葉書ヲ書ク。午後、労働。

所長、午後ヨリ馬場氏全道、来所。馬場氏共ニ労働ヲ

サル。

奥野、原氏、来所。

所長、止泊。

十二月四日 日

所長、来所、止泊。

瀬下氏外一名、来所、坐禪。

參觀者 女子大先生、香坂東京府知事。

十二月五日 月

滿洲派遣軍ニ対シ、慰問袋發送決定。本日ヨリ買出シ

ニ着手。第一回トシテ五百個。品目、タオル、チリ紙、

猿股、懐炉、全灰、安全剃刀、ライター、(絵葉書、

御守(明治神宮) 生姜砂糖漬、海苔。

參觀者 小野津勝一氏。

十二月六日 火

所長、来所。

慰問品、買出シ(山田、石川)。

太尾町大綱小学校へ、童児図画依頼(慰問袋用)。

奥野氏、来所。

十二月七日 水 雨

夜、幼稚園へ慰問袋準備ノタメ出張(一同)。

坂戸、原田両氏、帰京。

十二月八日 木

所長、来所。坂戸、原田氏、出所。

午前十時ヨリ、奥野氏ノ興禪護国論ノ講演アリ。

所長、午後ヨリ明世寮ノ懇親会ニ出席。

夜、幼稚園へ慰問袋作りニ出張。

十二月九日 金

夜、幼稚園へ慰問袋作りニ出張。

十二月十日 土

夜、幼稚園へ慰問袋作りニ出張。

宮本、帰所。

十二月十二日 月

慰問袋、完成。

忘年会ノ案内状、發送。

十二月十三日 火

慰問袋ヲ陸軍省ニ納附(五百個)。

史料編纂所へ壺千円持参(山田)。

十二月十四日 水

所長、来所。高月、目黒氏、来所。

日本女子大学々生廿数名、參觀。

辻、藤原両氏へ、年末謝礼金持参。

所長、今夕大阪へ旅行。

藤原氏、来所。

十二月十五日 木

原、奥野、両氏来所。

十二月十六日 金

所長、大阪ヨリ帰京。

十二月十七日 土

所長、来所。

忘年会準備及外部掃除（所員一同）。

十二月十八日 日

午前十時ヨリ、忘年会ヲ当所ニ於テ催ス。

1. 所長挨拶。2. 各係ヨリ干係事務報告。途中ニテ

昼食（支那料理）。再ビ報告、福引、所長挨拶、土産

菓子分配。四時半、散会。出席者四十名。

参観者 安達謙蔵氏、Mr. James. A. B. Scherer 氏。

十二月十九日 月

所長、来所。奥野氏、来所。

午後五時ヨリ、神道学者会合（東京会館）。

十二月廿日 火

所長、出所。原氏、出所。

午後三時ヨリ、神道学者会合。

史料編纂所へ、下記承諾書送附ス。

宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井一〇三八

田尻皓平氏

一、日向国高千穂串振記

一卷

一、神楽歌（首欠）ゆつらん云々 一卷

一、由緒書 建武五年三月十八日僧了観（花押）書

写ノ奥書アリ

十二月廿一日 水

所長、来所。

満洲神社建設二千シ。

原田、神奈川県庁税務出張所へ、免税ノ件二千シ出張。

神社参拝問題二千スル神道学者会合通知、發送。

十二月廿二日 木

所長、来所。奥野氏、出所。

参観者 片岡氏、一噌氏。

所長ヨリ、一同へ賞与ノ授与アリ。

十二月廿三日 金

奥野氏、原氏、来所。

十二月廿四日 土

十二月廿六日 月

所員一同、餅搗。

十二月廿七日 火

所内大掃除。

十二月廿八日 水

牟田、九州へ休暇帰郷。山田、埼玉県へ一泊旅行。本

日ヨリ休暇ニ入ル。

岡崎、小田原へ帰宅。

十二月廿九日 木

原田、出所。山田、日本橋へ出張。

山田、フロイデンベルグ家賃及給料ヲ届ケル。

十二月卅日 金 昨夕ヨリノ雨、雪ト変ル

藤井、一泊ノ予定ニテ帰宅。

岡崎、帰所。

本日支払終（人夫、東電、大工、石炭）。

十二月卅一日 土 晴

午後九時ヨリ、殿堂ニ於テ、大祓ノ式ヲ作フ。

所長以下所員一同、参列。